OECD生徒の学習到達度調査

PISA2022のポイント

目次

1．PISA2022の結果（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2．PISA2022の結果（詳細）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（1）数学的リテラシー（PISA2022の中心分野）・・ 4

（2）読解力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

（3）科学的リテラシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（4）社会経済文化的背景と平均得点・・・・・・・・・・ 10

（5）新型コロナウイルス感染症の影響

～2018-2022年における「レジリエントな」国・地域～・・・・ 13

（6）ICT活用状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

3．PISA調査結果を踏まえた文部科学省の主な取組一覧・・・・・19

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

参考①　PISA(Programme for International Student Assessment)調査について

参考②　PISAで測定する数学的リテラシーについて

参考③　PISA2022年調査の国際比較（3分野の結果一覧）

1． PISA2022の結果（概要）

PISA調査とは

○**義務教育修了段階の15歳の生徒**が持っている**知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測る**ことを目的とした調査。

○**読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー**の3分野について、2000年以降、おおむね3年ごとに調査実施。 各回で3分野のうちの1分野を順番に中心分野として重点的に調査。

○2015年調査より、筆記型調査から**コンピュータ使用型調査(CBT)**に移行。

○平均得点は**経年比較可能**な設計。

※平均得点を比較する場合は、数値の差を見るだけではなく、統計的に意味のある差（有意差）の有無の確認が重要。

○3分野の調査結果を生徒や学校が持つ様々な特性との関連によって分析するため、**質問調査**（生徒質問調査、ICT活用調査（生徒対象）、学校質問調査）も併せて実施。

<PISA2022について>

○**81か国・地域**から約69万人が参加。日本からは、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校（学科）、約6,000人が参加（2022年６月から８月に実施）。

○中心分野は、**数学的リテラシー**。

○新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年に予定されていた調査を2022年に延期して実施。

PISA2022の結果概要（日本）

3分野（数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー）

○**数学的リテラシー**（1位/5位）、**読解力**（2位/3位）、**科学的リテラシー**（1位/2位）**3分野全てにおいて世界トップレベル**。前回2018年調査から、OECDの平均得点は低下した一方、日本は3分野全てにおいて前回調査より平均得点が上昇（統計的には、読解力及び科学的リテラシーは有意に上昇、数学的リテラシーは有意差はない。）。

※（）の左側はOECD加盟国中、右側は全参加国・地域中における日本の順位。

○今回の結果には、新型コロナウイルス感染症のため休校した期間が他国に比べて短かったことが影響した可能性があることが、OECDから指摘されている。このほか、

・学校現場において現行の学習指導要領を踏まえた授業改善が進んだこと

・学校におけるICT環境の整備が進み、生徒が学校でのICT機器の使用に慣れたこと

などの様々な要因も、日本の結果に複合的に影響していると考えられる。

○読解力、科学的リテラシーにおいて低得点層（習熟度レベル1以下）の割合が有意に減少し、数学的リテラシー、科学的リテラシーにおいて高得点層（習熟度レベル5以上）の割合が有意に増加。

社会経済文化的背景と平均得点

○社会経済文化的背景（ESCS）の水準が高いほど習熟度レベルが高い生徒の割合が多く、低いほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い傾向が見られることは、OECD平均と同様の傾向。

○一方、数学的リテラシーの平均得点が高い国の中では、日本はESCS水準別に見た数学的リテラシーの得点差が小さい国の一つで、かつ、ESCSが生徒の得点に影響を及ぼす度合いが低い国の一つ。

新型コロナウイルス感染症の影響～2018-2022年における「レジリエントな」国・地域～

○OECDが分析する「レジリエントな」国・地域（※1）は4つ（※2）で、日本はその１つ。

(※1) 以下の3つの側面全てにおいて安定又は向上が見られた国・地域**（→詳細はP.13）**

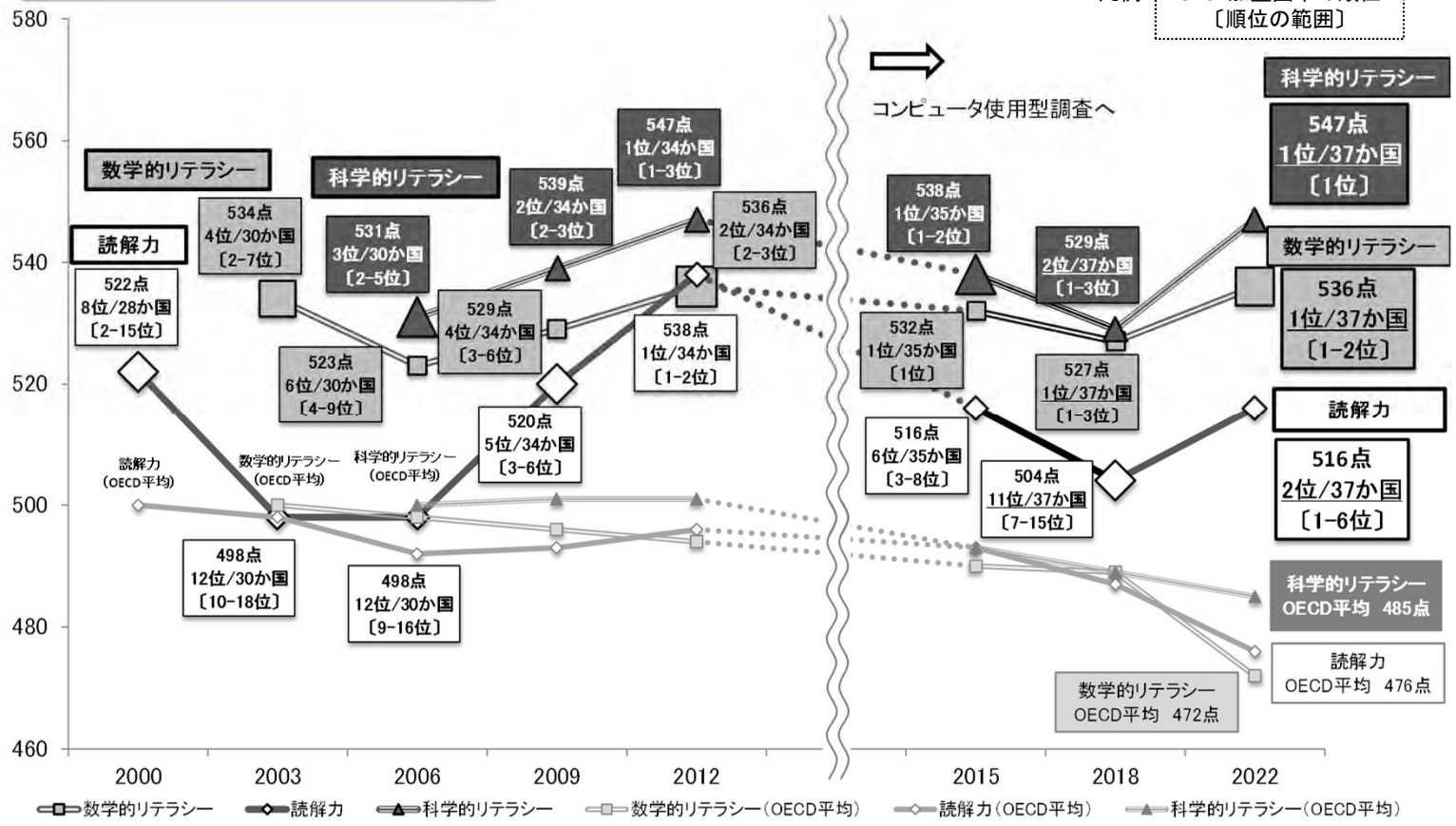
①数学の成績（数学的リテラシーの得点の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

②教育におけるウェルビーイング（学校への所属感の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

③教育の公平性（公平性の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

(※2) 日本の他、韓国、リトアニア、台湾。

平均得点及び順位の推移



３分野の得点の国際比較（概要）

OECD加盟国（37か国）における比較

は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	日本	536	アイルランド*	516	日本	547
2	韓国	527	日本	516	韓国	528
3	エストニア	510	韓国	515	エストニア	526
4	スイス	508	エストニア	511	カナダ*	515
5	カナダ*	497	カナダ*	507	フィンランド	511
6	オランダ*	493	アメリカ*	504	オーストラリア*	507
7	アイルランド*	492	ニュージーランド*	501	ニュージーランド*	504
8	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
9	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
10	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485
	信頼区間※（日本）：530-541		信頼区間（日本）：510-522		信頼区間（日本）：541-552	

全参加国・地域（81か国・地域）における比較

は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

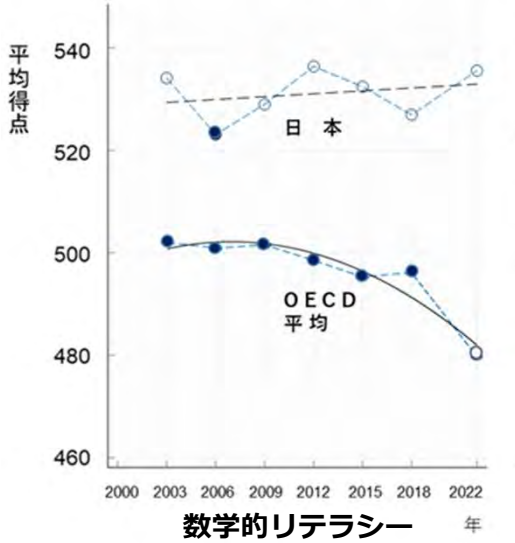
	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	547	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	マカオ	510	香港*	520
8	スイス	508	カナダ*	507	カナダ*	515
9	カナダ*	497	アメリカ*	504	フィンランド	511
10	オランダ*	493	ニュージーランド*	501	オーストラリア*	507
	信頼区間※（日本）：530-541		信頼区間（日本）：510-522		信頼区間（日本）：541-552	

＊国名の後に「＊」が付されている国・地域は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。
※信頼区間は調査対象者となる生徒全員（母集団）の平均値が存在すると考えられる得点の幅を表す。PISA調査は標本調査であるため一定の幅をもって平均値を考える必要がある。

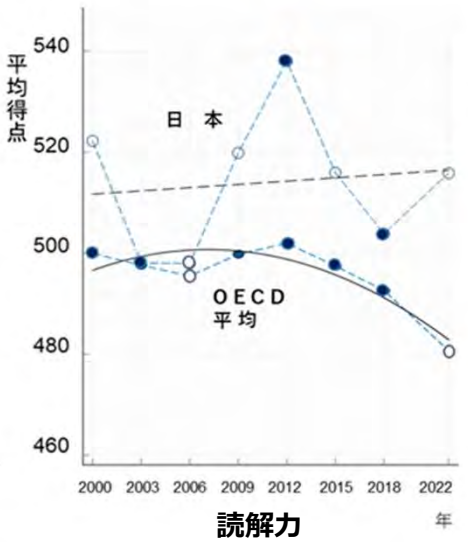
日本とOECDの平均得点の推移（調査開始時-2022年）

OECD平均は平均得点の長期トレンドが下降しているが、日本は平坦型（平均得点のトレンドに統計的に有意な変化がない）。

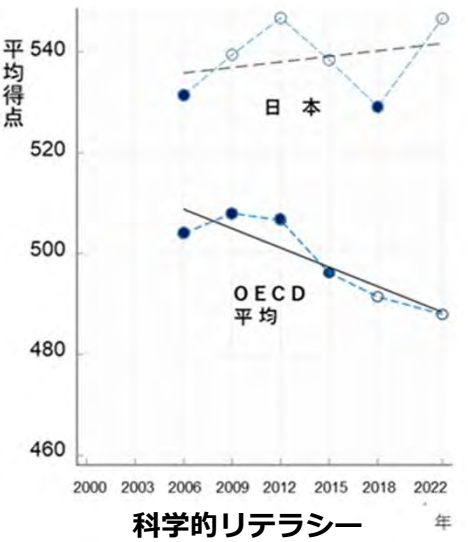
（注）白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す。



数学的リテラシー



読解力



科学的リテラシー

2．PISA2022の結果（詳細）

(1) 数学的リテラシー（PISA2022の中心分野）

◆数学的リテラシーの定義

数学的に推論し、現実世界の様々な文脈の中で問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力のことである。それは、事象を記述、説明、予測するために数学的な概念、手順、事実、ツールを使うことを含む。

この能力は、現実社会において数学が果たす役割に精通し、建設的で積極的かつ思慮深い21世紀の市民に求められる、十分な根拠に基づく判断や意思決定をする助けとなるものである。

①数学的リテラシーの得点・習熟度レベル

○日本の数学的リテラシーの平均得点(536点)は、引き続き世界トップレベル。OECD加盟国中1位（順位の範囲：1-2位）。

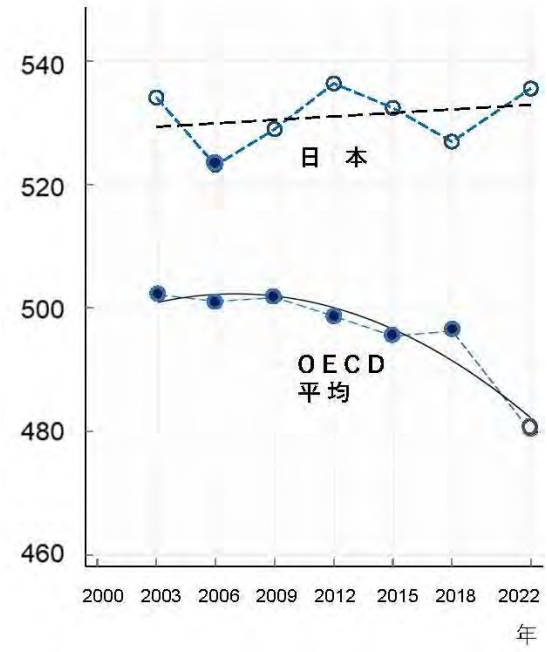
○2018年調査からOECDの平均得点は大きく低下した。一方、日本は高水準で安定している。

○日本は、「各プロセスの平均得点」「各内容知識の平均得点」を見ても、国際的に高い。

○日本は、OECD平均と比べて、習熟度レベル５以上の高得点層が多く、習熟度レベル１以下の低得点層が少ない傾向が、引き続き見られる。また、習熟度レベル５以上の高得点層の割合が、2018年調査から有意に増加している。

(ｉ) 数学的リテラシーの平均得点の推移

（注）白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す。



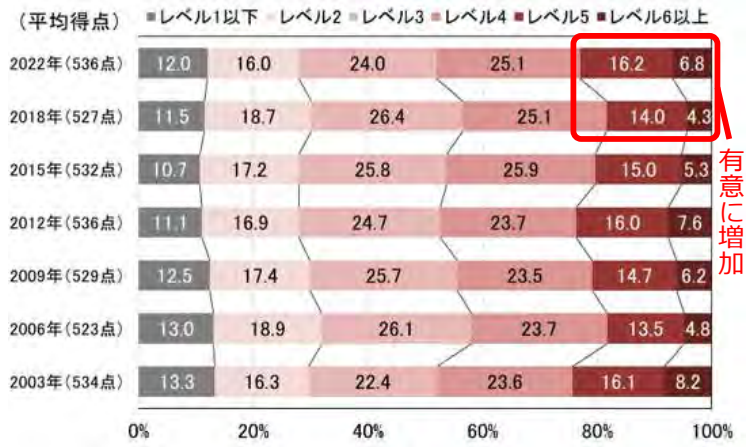
(ii) 数学的リテラシーの下位尺度の平均得点

国名	平均得点	各プロセスの平均得点			
		定式化	活用	解釈	推論
日本	536	536	536	544	534
OECD平均	472	469	472	474	473

各内容知識の平均得点			
変化と関係	量	空間と形	不確実性とデータ
533	535	541	540
470	472	471	474

(iii) 習熟度レベル別の生徒の割合（経年変化）（数学的リテラシー）

日本



OECD平均



②具体的な問題例

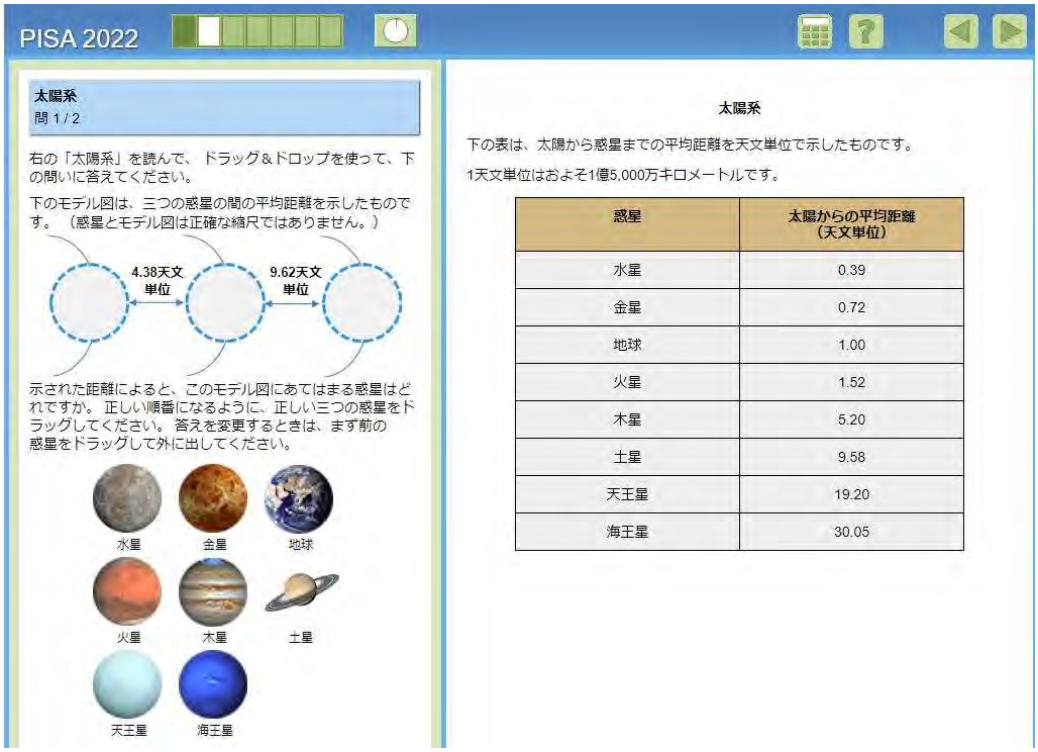
(注) 各設問には難易度が付与されており、最も難しい問題がレベル６、最も易しい問題がレベル１となっている。

モデル図や表に示された数値を解釈し、目的に応じて適切に用いる力を問う問題

太陽系 問１

太陽から各惑星までの平均距離を天文単位（１天文単位はおそよ１億5000万km）で表した表から、三つの惑星の間の平均距離の差を示したモデル図に当てはまる惑星をドラッグ・アンド・ドロップで選ぶ。

プロセス：解釈
内容：量
状況：科学的



この問題の特徴は、モデル図に示された数値の意味が、太陽から該当する２つの惑星までの平均距離の差であることを読み取り、表の数値から差を求め、適切なものを選ぶことにある。

具体的には、まず、問題文のモデル図に2つの惑星間の平均距離の差が4.38、9.62と示されていること、表には太陽から各惑星までの平均距離が示されていることを把握する。その上で、例えば9.62をおよそ10と捉え、表を用いて太陽から各惑星までの平均距離の差を概算すると、土星と天王星間の平均距離に着目することができる。実際にその差を求めると9.62であることが分かる。さらに、木星と土星間の平均距離を求めると4.38であることが分かる。

この問題はレベル３とされており、日本の正答率は、67.5% (OECD加盟国中２位)である。

<正答>

左から木星、土星、天王星。

統計的な概念を理解し、身の回りにある事象を適切に推論し判断する力を問う問題

得点 問１

あるバスケットボールチームの複数試合の得点差の平均が19点だった場合において、「得点差が19点だった試合はなかった」という可能性があるかないかを判断した上で、そのように判断した理由を説明する。

プロセス：推論
内容：不確実性とデータ
状況：社会的



この問題の特徴は、試合数や試合ごとの得点差が分からない状況において、平均の知識を活用して、19点差で勝った試合がないことがありうることを説明することにある。

具体的には、試合数や得点差を仮定し、例えば、得点差が19点の試合はないが、平均が19点である例をあげればよい。

この問題はレベル６とされており、日本の正答率は26.6% (OECD加盟国中１位)である。生徒の解答状況から、平均の意味は理解しているものの、「19点差で勝ったことはありうる」、「19点差で勝ったことはあるともないとも言えない」と説明するなど、数学的推論における（あるいは命題に関する）論理の把握が不十分な生徒も見受けられた。

<正答例>

- 【はい】平均値は実際のデータセットの中の値として存在する必要はないため、ありうる。
- 【はい】ある試合が16点差で、別の試合が22点差だった場合、点差の平均は19点になるが、19点はどちらの試合の点差でもない。

複数のデータセットを処理し、その結果を解釈する力を問う問題

森林面積 問３

表計算ソフトを使って、2005年～2010年、及び2010年～2015年の二つの期間の間の森林面積の割合の変化について調べ、変化の差が大きい上位二か国を特定する。

プロセス：解釈
内容：不確実性とデータ
状況：社会的



この問題の特徴は、複数のデータセットに対し、表計算ソフトを用いて目的に応じた処理を施し、その結果を目的に応じて解釈することが求められている点にある。

具体的には、まず、2005年から2010年までの期間における森林面積の割合の変化と、2010年から2015年までの期間における森林面積の割合の変化をそれぞれ求め、その差を求める。次に、「森林面積の割合が最も大きく変化した国」という問題文の意味を適切に把握し、符号を捨象した絶対値に基づいて、目的に合う二つの国を特定することが求められている。

この問題はレベル６とされており、日本の正答率は33.5% (OECD加盟国中１位)で、あった。

<正答>
インド、コロンビア

統計的な情報を理解し、事象を批判的に捉え考察する力を問う問題

森林面積 問４

表計算ソフトで示された15か国の国土面積に対する森林面積の割合のデータを見て、「韓国は、リストにある他のどの国よりも森林面積が多い」という主張が、データに基づいているか判断し、そのように判断した理由を説明する。

プロセス：推論
内容：不確実性とデータ
状況：社会的



この問題の特徴は、表示されているデータが国土面積に対する森林面積の割合を表しており、その割合のみから、他の国と比べて森林面積が多いと主張することができないことを判断し、その理由を説明することが求められている点にある。

この問題では、森林面積の割合に関するデータは示されているが、森林面積自体に関するデータは示されていないため、春奈さんの指摘はデータに基づいているとは言えない。しかし、森林面積の割合と森林面積との違いの区別がついておらず、「2005年、2010年、2015年のどの年のデータを見ても韓国が一番多いから」と回答する生徒が見られた。

この問題はレベル６とされており、日本の正答率は、18.3%(OECD加盟国中１位)であった。

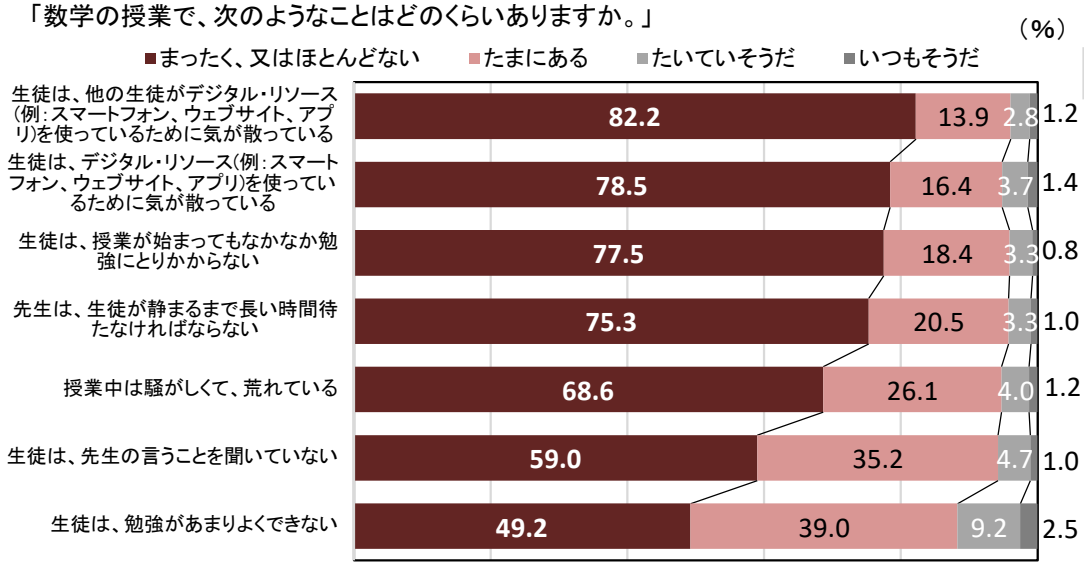
<正答例>
・【いいえ】表計算ソフトの値は割合を示しているだけなので、主張は正しくない。
・【いいえ】それぞれの国の総面積が違うから。

③数学的リテラシーに関係する質問調査の結果

○「数学の授業の規律ある雰囲気」指標はOECD加盟国中第１位であり、日本の数学の授業は規律ある雰囲気の中で行われている。

（ｉ）生徒質問調査　問35　数学の授業の雰囲気（日本）

「数学の授業で、次のようなことはどのくらいありますか。」



（ii）生徒質問調査「数学の授業の規律ある雰囲気」指標

（ｉ）の7項目の回答割合から指標値を算出。

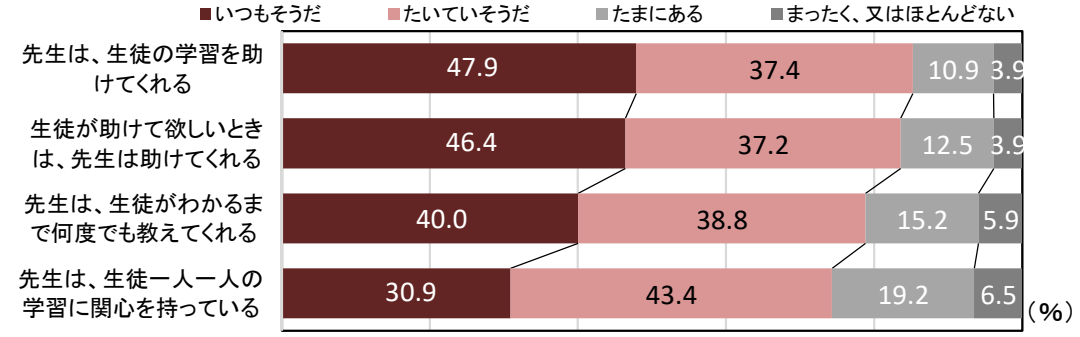
1位	日本	1.09
OECD平均		0.02

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、数学の授業において規律ある雰囲気となっていることを示している。

○「数学の授業における教師の支援」指標はOECD加盟国中第８位であり、 日本の生徒は数学の授業において教師のサポートを受けていると感じている。

（iii）生徒質問調査　問36　数学の先生（日本）

「数学の授業で、次のようなことはどのくらいありますか。」



（iv）生徒質問調査「数学の授業における教師の支援」指標

（iii）の４項目の回答割合から指標値を算出。

8位	日本	0.24
OECD平均		-0.03

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、生徒が数学の授業において教師からの支援があると認識していることを意味している。

○日本の生徒は、OECD平均に比べて、実生活における課題を数学を使って解決する自信が低い。また、数学を実生活における事象と関連付けて学んだ経験が少ない。

（v）生徒質問調査

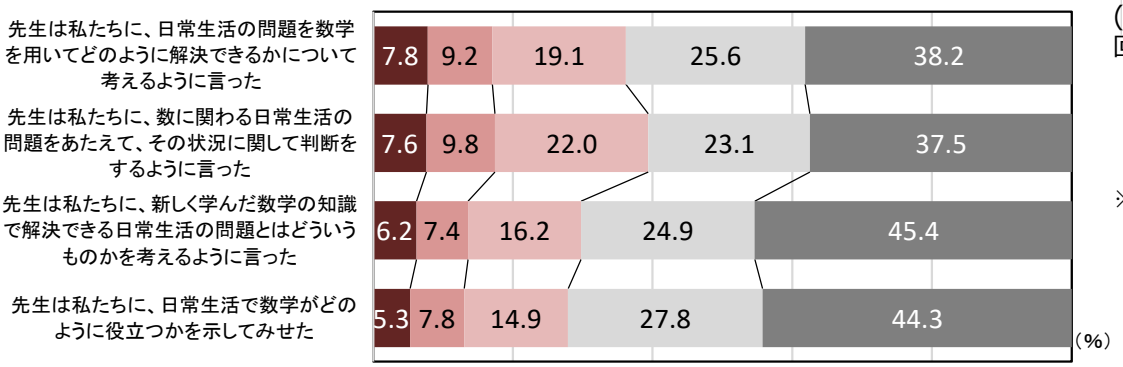
問43　数学の課題に対する自己効力感（推論と21世紀的な課題）
「次のような数学の問題を解くことにどのくらい自信がありますか。」
問40　数学的推論と21世紀的な数学に関する課題に対する経験
「学校で、次のような数学的な活動をどのくらいやりましたか。」

	問43（自己効力感）※「とても自信がある」「自信がある」と回答した生徒の割合		問40（経験）※「何度もやった」「時々やった」と回答した生徒の割合	
	日本	OECD平均	日本	OECD平均
実生活の課題にからませて、数学的な解を求めること	30.0%	52.5%	46.6%	59.3%
実社会の問題の中から、数学的な側面を見つけること	22.7%	51.2%	37.8%	55.5%

○日本の数学の授業では、数学的思考力の育成のため、日常生活とからめた指導を行っている傾向がOECD平均に比べて低い。

（vi）生徒質問調査　問38　数学での認知の活性化(数学的思考力の育成(A))(日本)

「今年度、数学の授業で、先生は次のようなことをどのくらいしましたか。」



（vii）生徒質問調査「数学での認知の活性化（数学的思考力の育成(A)）」指標

（vi）の４項目を含む９項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均		0.01
36位	日本	-0.35

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、数学での認知の活性化（数学的思考力の育成（A））が行われていることを意味している。

(2) 読解力

◆読解力の定義

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

＜測定する能力＞「①情報を探し出す」「②理解する」「③評価し、熟考する」

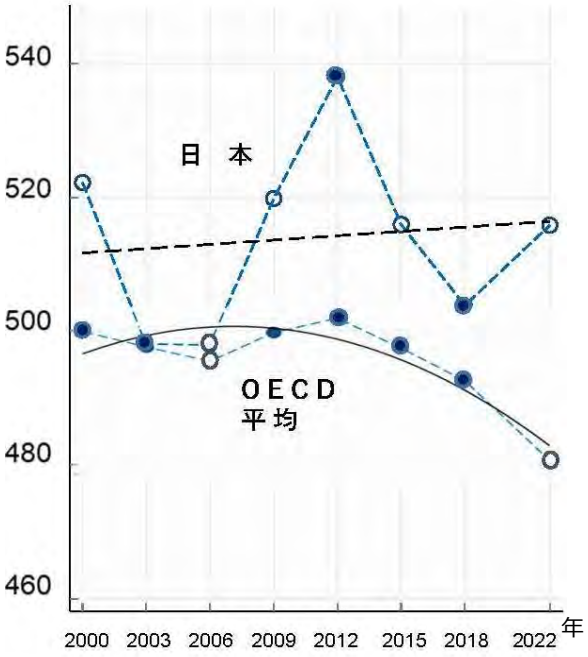
○読解力の平均得点(516点)は、OECD加盟国中2位（順位の範囲：1-6位）。前回2018年調査(504 点)から有意に上昇し、前々回2015年調査（516点）と同水準。

○OECD平均は平均得点の長期トレンドが下降しているが、日本は平坦型（平均得点のトレンドに統計的に有意な変化がない）。

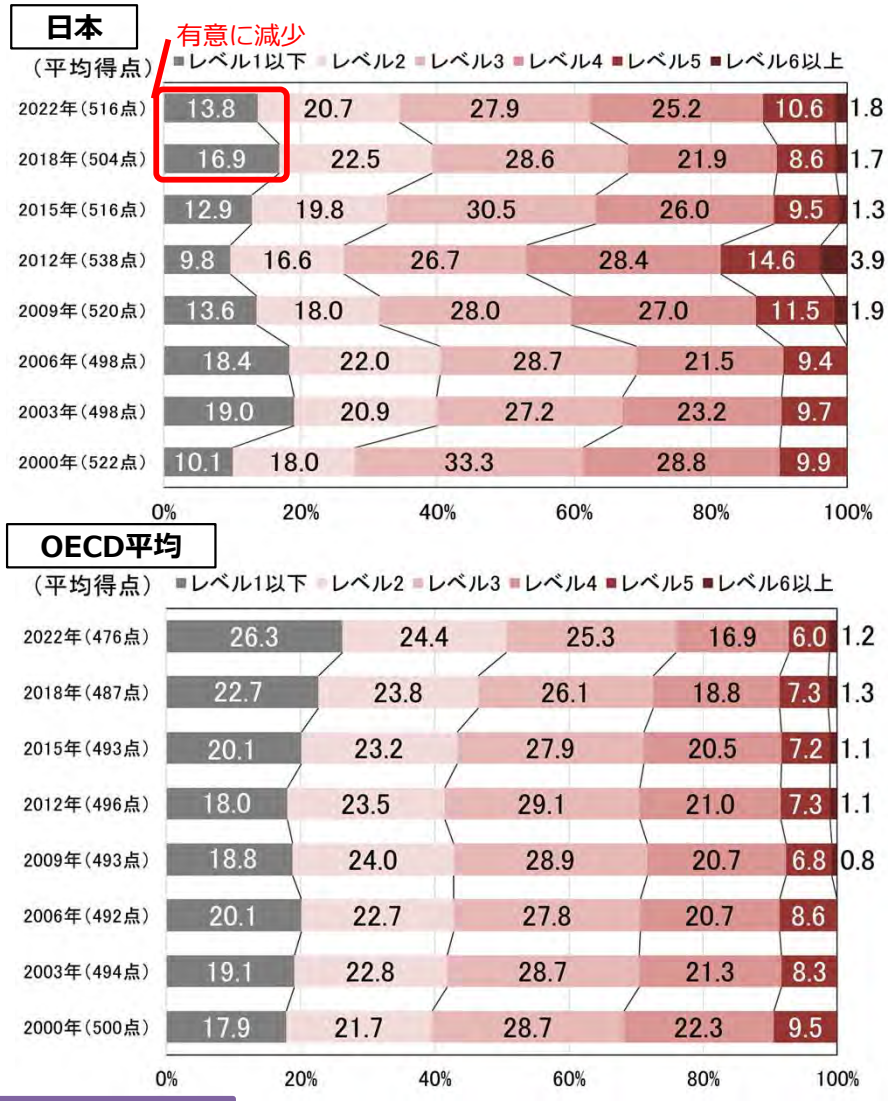
○日本は習熟度レベル１以下の低得点層の割合が前回調査に比べて有意に減少している。

（ｉ）読解力の平均得点の推移

（注）白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す。



（ⅱ）習熟度レベル別の生徒の割合（経年変化）（読解力）



前回調査で課題が見られた問題の今回調査での状況

○前回2018年調査では、ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文から必要な情報を探し出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりする大問において、特に問4・問6の正答率がOECD平均より低い状況が見られた。

○今回調査では、この大問の正答率が全体的に微増する傾向が見られた。※今回は正答率のOECD平均は公表されていない。

◆課題文１：企業のWebサイト（商品の安全性を宣伝）

問１：字句や内容を理解する
69.9%→75.2%【②理解する】

問２：記載内容の質と信ぴょう性を評価する（自由記述）
60.2%→65.7%【③評価し、熟考する】

◆課題文２：オンライン雑誌記事（商品の安全性について別の見解）

問３：課題文の内容形式を考える
81.5%→83.1%【③評価し、熟考する】

問４：必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し探し出す
56.1%→56.8%【①情報を探し出す】

◆課題文１と２を比較対照

問５：両文章の異同を確認する
53.1%→59.9%【③評価し、熟考する】

問６：情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する（自由記述）
8.9%→14.3%【③評価し、熟考する】

※青字は日本の正答率（左：2018年調査、右：2022年調査）

(3) 科学的リテラシー

◆科学的リテラシーの定義

思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力。

＜測定する能力＞「①現象を科学的に説明する」
「②科学的探究を評価して計画する」
「③データと証拠を科学的に解釈する」

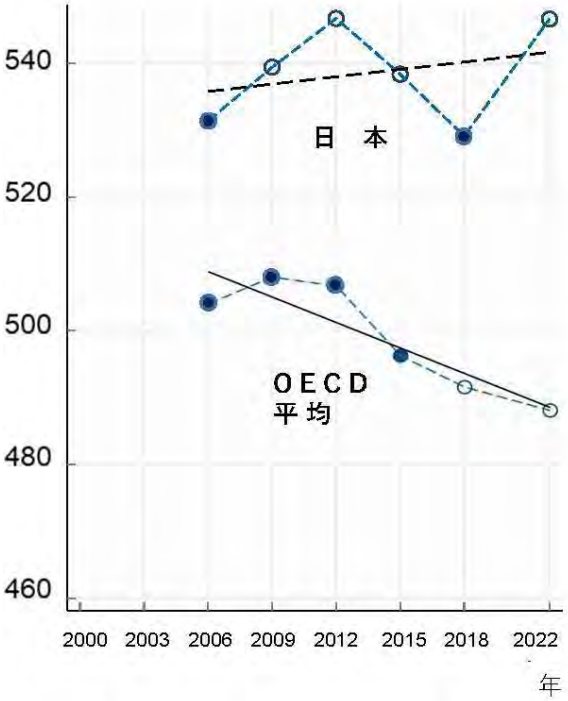
○日本の科学的リテラシーの平均得点(547点)は、引き続き世界トップレベル。OECD加盟国中１位（順位の範囲：1位）。前回2018年調査(529 点)から有意に上昇。

○OECD平均は平均得点の長期トレンドが下降しているが、日本は高水準で安定している。

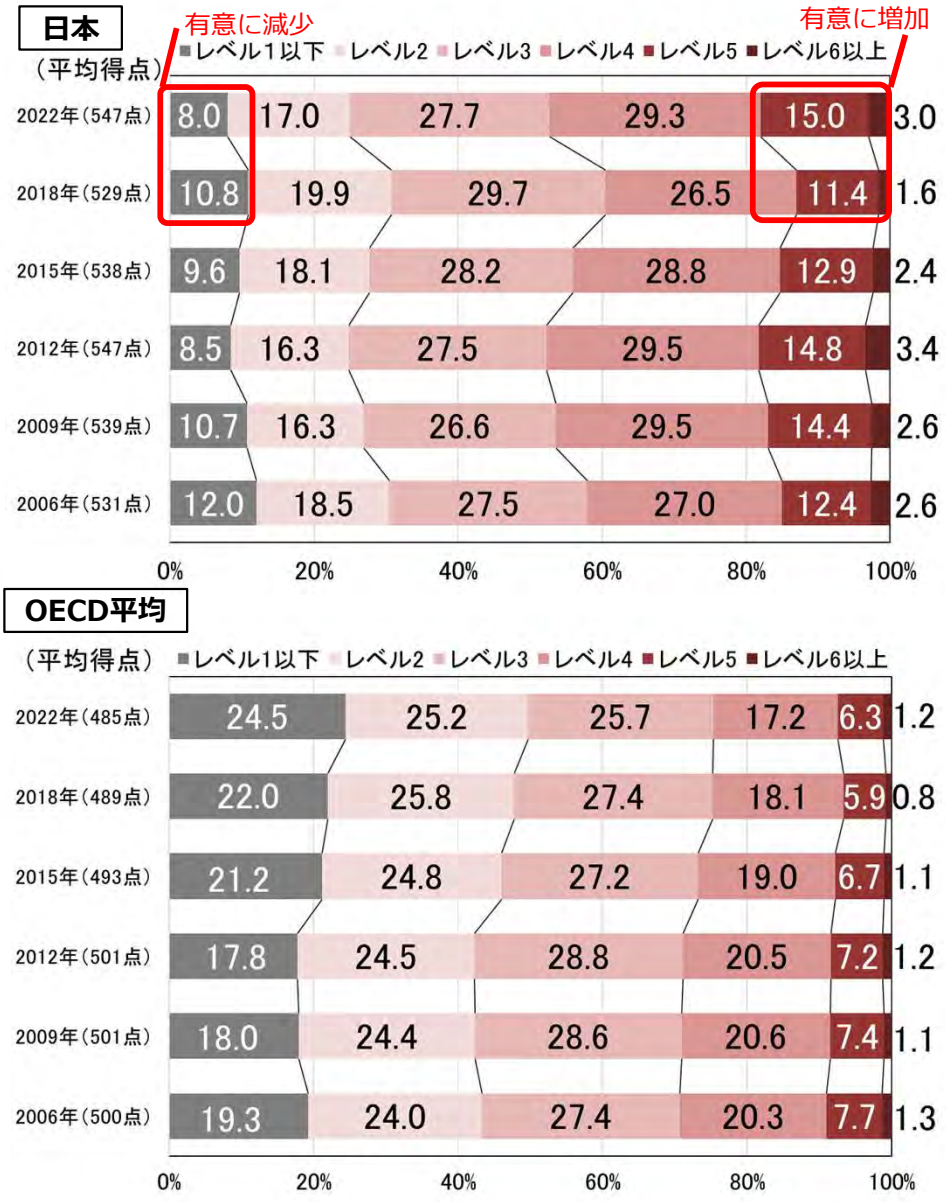
○日本は習熟度レベル１以下の低得点層の割合が前回調査に比べて有意に減少し、習熟度レベル５以上の高得点層の割合が有意に増加。

（ｉ）科学的リテラシーの平均得点の推移

（注）白丸はPISA2022年の平均得点を統計的に有意に上回ったり下回ったりしない平均得点を示す。



（ii）習熟度レベル別の生徒の割合（経年変化）（科学的リテラシー）



(4) 社会経済文化的背景と平均得点

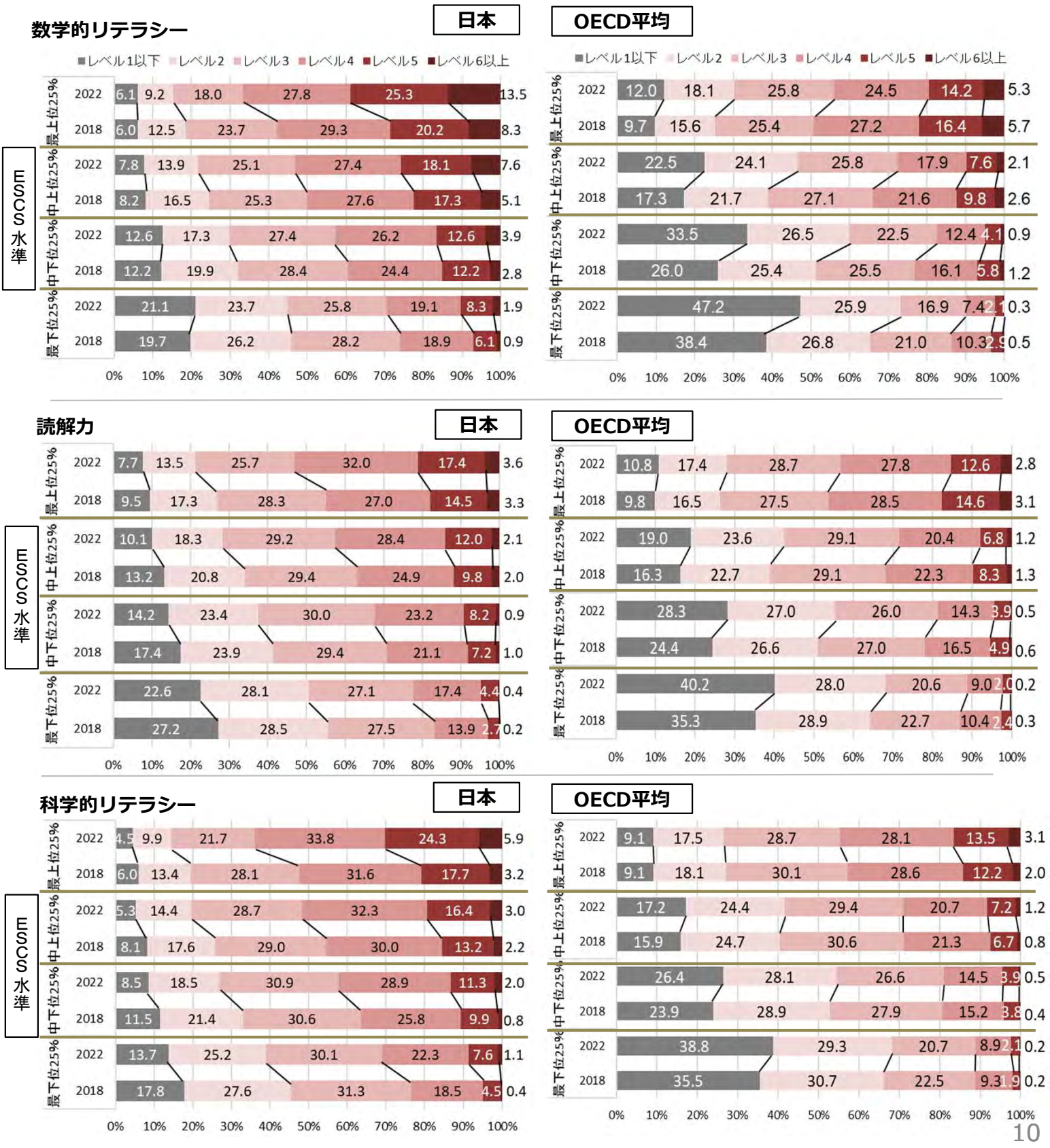
◆社会経済文化的背景（ESCS ; Economic, Social and Cultural Status）

PISA調査では、保護者の学歴や家庭の所有物に関する生徒質問調査の回答から「社会経済文化的背景」（ESCS）指標を作成。この値が大きいほど、社会経済文化的水準が高いとみなしている。ESCSの値の高低により生徒を4群に分け、3分野の得点との関係などを分析。

○日本、OECD平均ともに、「社会経済文化的背景」（ESCS）の水準が高いほど習熟度レベルが高い生徒の割合が多く、ESCSの水準が低いほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い。

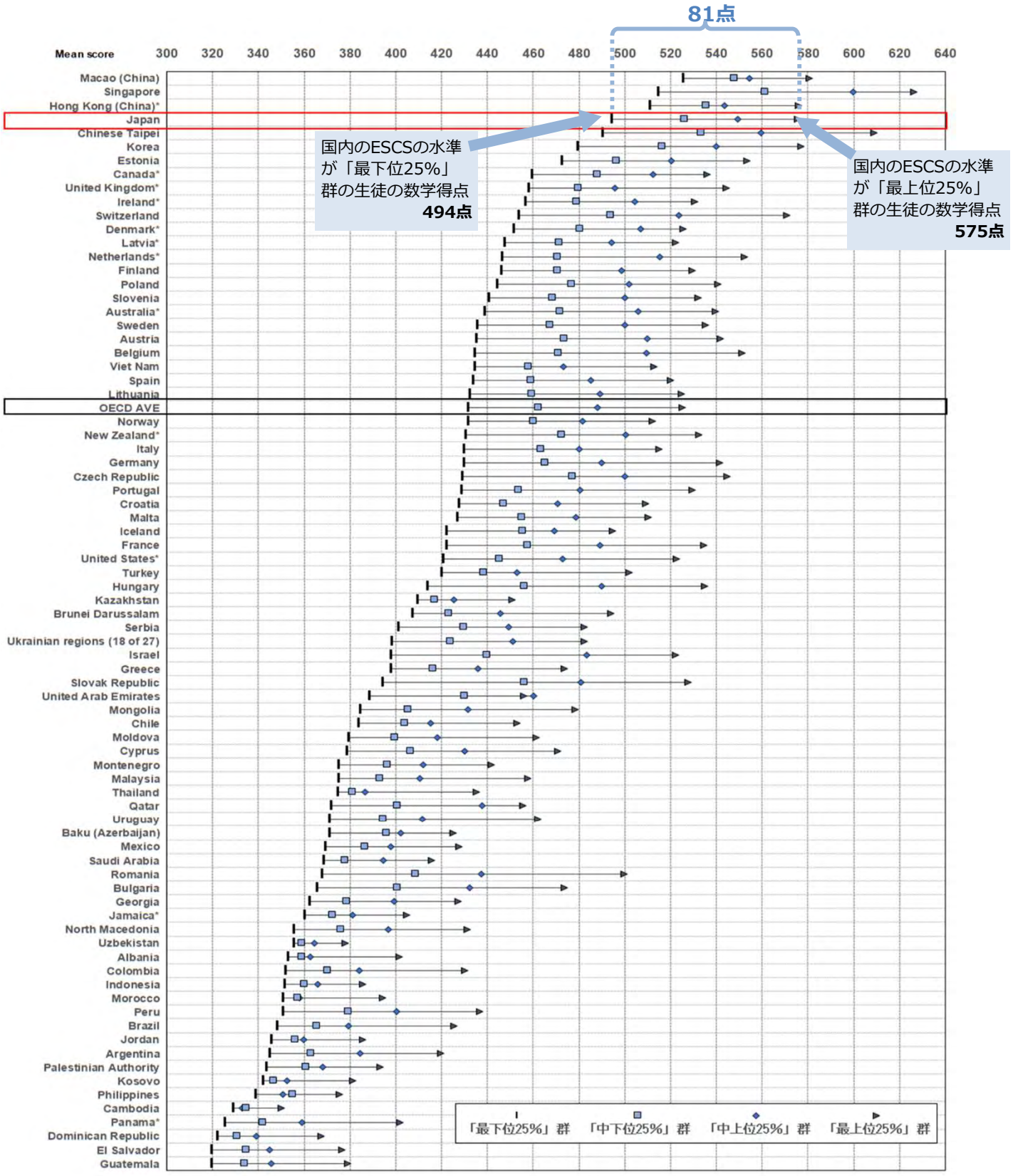
○ESCS水準別に見ると、日本は3分野ともに、前回の2018年調査から今回の2022年調査にかけて、習熟度レベルが全体的に上昇している。

（ｉ）ESCS水準別に見た生徒の習熟度レベルの割合（2018→2022年）



○数学的リテラシーの平均得点が高い国の中では、日本は、国内の「社会経済文化的背景」（ESCS）水準別に見た場合、生徒間の数学的リテラシーの得点差が小さい国の一つである。

（ⅱ）「社会経済文化的背景」（ESCS）水準別に見た数学的リテラシーの平均得点（国際比較）



(注) ESCSの「最下位25%」群の生徒の平均得点が高い順に上から国・地域を並べている。

○日本は、国内のESCSの水準が「**最下位25%」群の生徒の数学得点（494点）が国際的に見ると高い**。

○日本は、国内のESCSの水準が「最下位25%」群の生徒の数学得点は494点、「最上位25%」群の生徒の数学得点は575点であり、両群の差（「最上位25%」群－「最下位25%」群）は81点である。これは**OECD平均の93点よりも小さい**。

生徒の「社会経済文化的背景」（ESCS）と数学的リテラシーの平均得点との関連

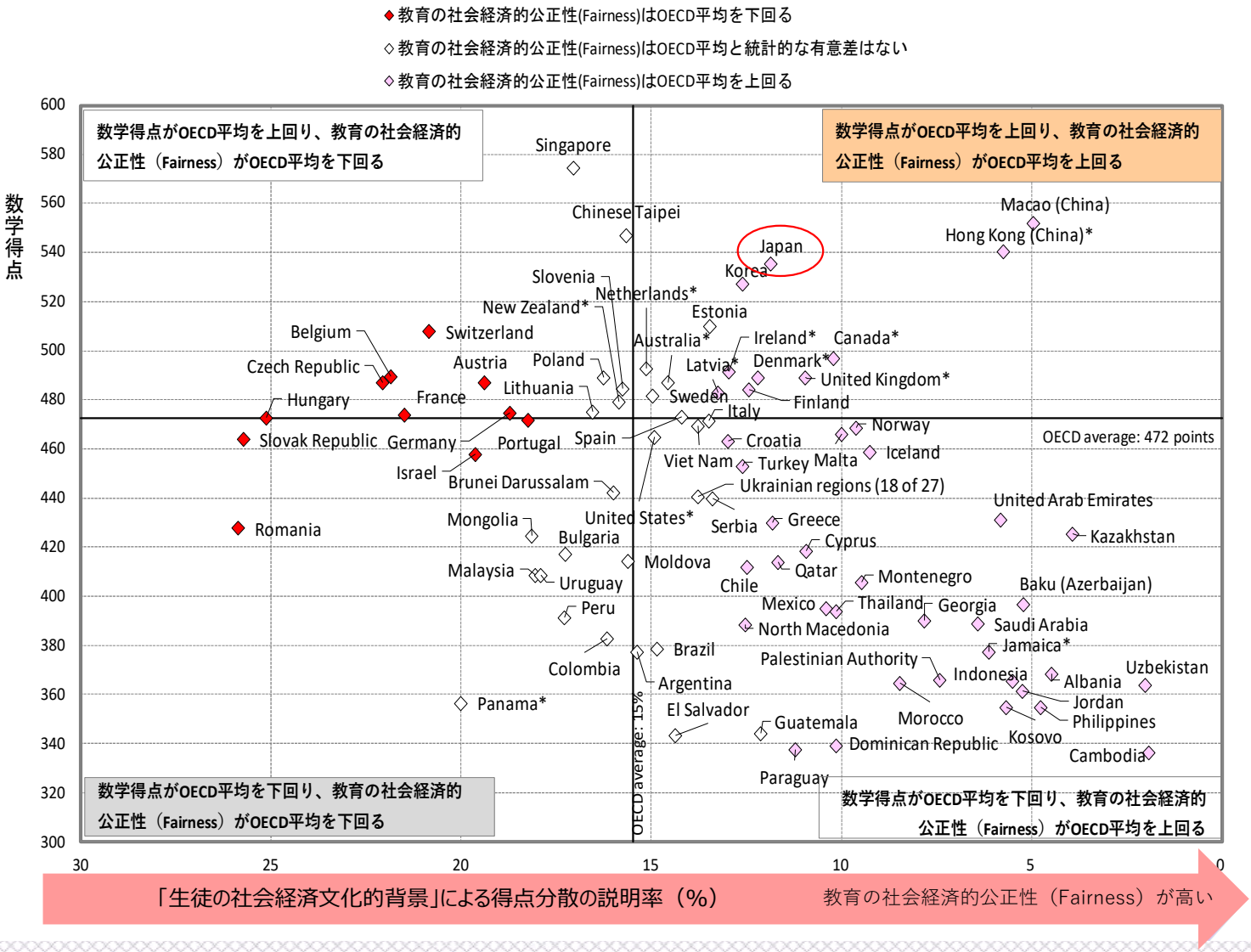
○日本は縦軸で示される数学的リテラシーの平均得点がOECD平均よりも高く、かつ横軸で示される教育の社会経済的公正性（Fairness）がOECD平均を上回るパターン（図中の右上のグループ）に位置する。

○Fairnessとは、数学得点を予測する回帰分析において、「社会経済文化的背景」（ESCS）が得点のばらつきに対してどの程度の説明力をもつかを示すものである。

○この説明率が日本では**11.9**%であり、OECD平均の**15.5**%を下回っている。

○図中の右上のグループでは、日本はOECD加盟国の中で数学得点がもっとも高く、Fairnessもカナダ（10.2%）、イギリス（11.0%）に次いで低い。つまり、日本では社会経済文化的水準が生徒の数学得点のばらつきに影響する度合いが比較的小さい。

○図中で左上のグループ上方に位置するシンガポールは、日本よりも数学得点が高いものの、Fairnessは17.0%であり、日本よりも社会経済文化的水準が生徒の数学得点のばらつきに影響する度合いが大きい。



(5) 新型コロナウイルス感染症の影響～2018-2022年における「レジリエントな」国・地域～

「レジリエントな」国・地域

○OECDは、①数学の成績、②教育におけるウェルビーイング、③教育の公平性の三つの側面について、2018年調査から2022年調査にかけての変化に着目し、その結果から「レジリエントな」国・地域を分析。

○PISA2022に参加した81の国・地域のうち、この3つの側面全てにおいて安定又は向上が見られた国・地域は、日本、韓国、リトアニア、台湾のみであり、OECDは、これらの国・地域を「レジリエントな」国・地域としている。

「レジリエントな」国・地域の三つの側面

①数学の成績（数学的リテラシーの得点の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

2018年から2022年にかけて、生徒の数学的リテラシーの平均得点が安定又は向上しており、かつ2022年はOECD平均以上であること。

②教育におけるウェルビーイング（学校への所属感の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

2018年から2022年にかけて、「生徒の学校への所属感」指標が安定又は向上しており、かつ2022年はOECD平均以上であること。

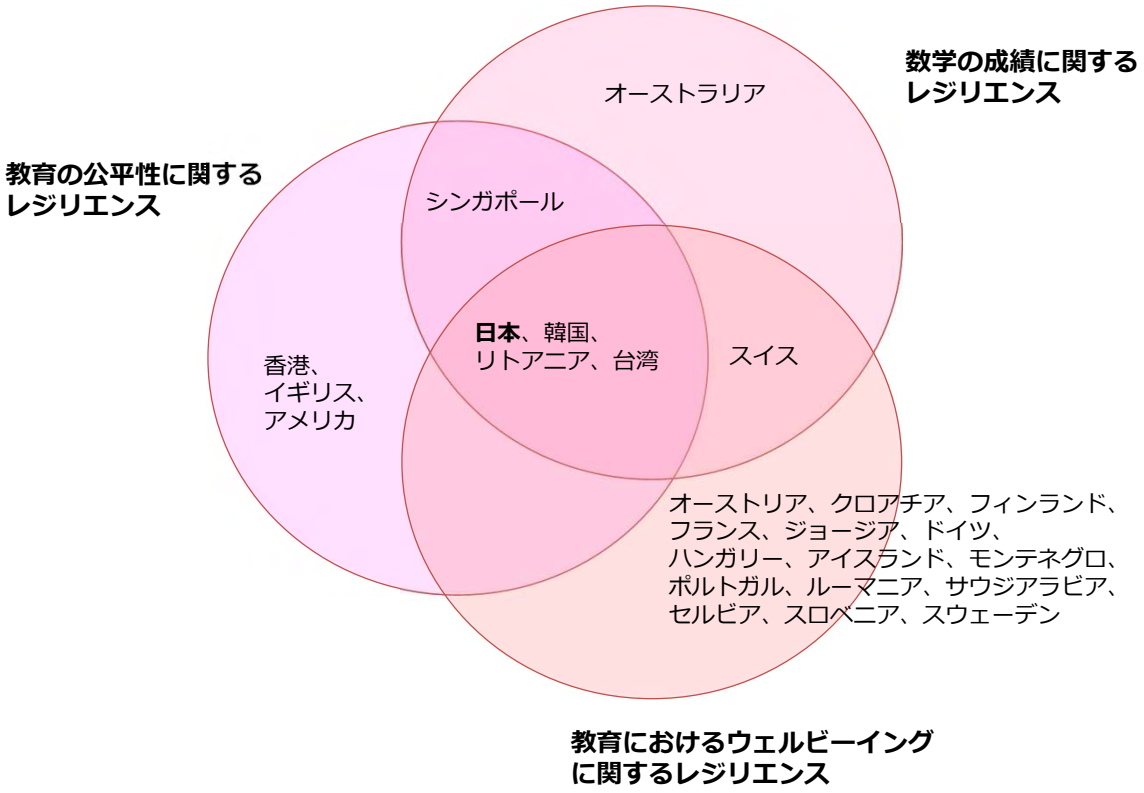
③教育の公平性（公平性の2022年の結果と2018年から2022年にかけての変化）

以下の３条件を満たすこと。

（ｉ）2022年の生徒の「社会経済文化的背景」（ESCS）による数学得点のばらつき（分散）の説明率がOECD平均に対して、有意に低いか有意差がないこと（教育の社会経済的公正性 Socio-economic fairness）

（ii）2022年の数学的リテラシーの平均得点がOECD平均以上であること

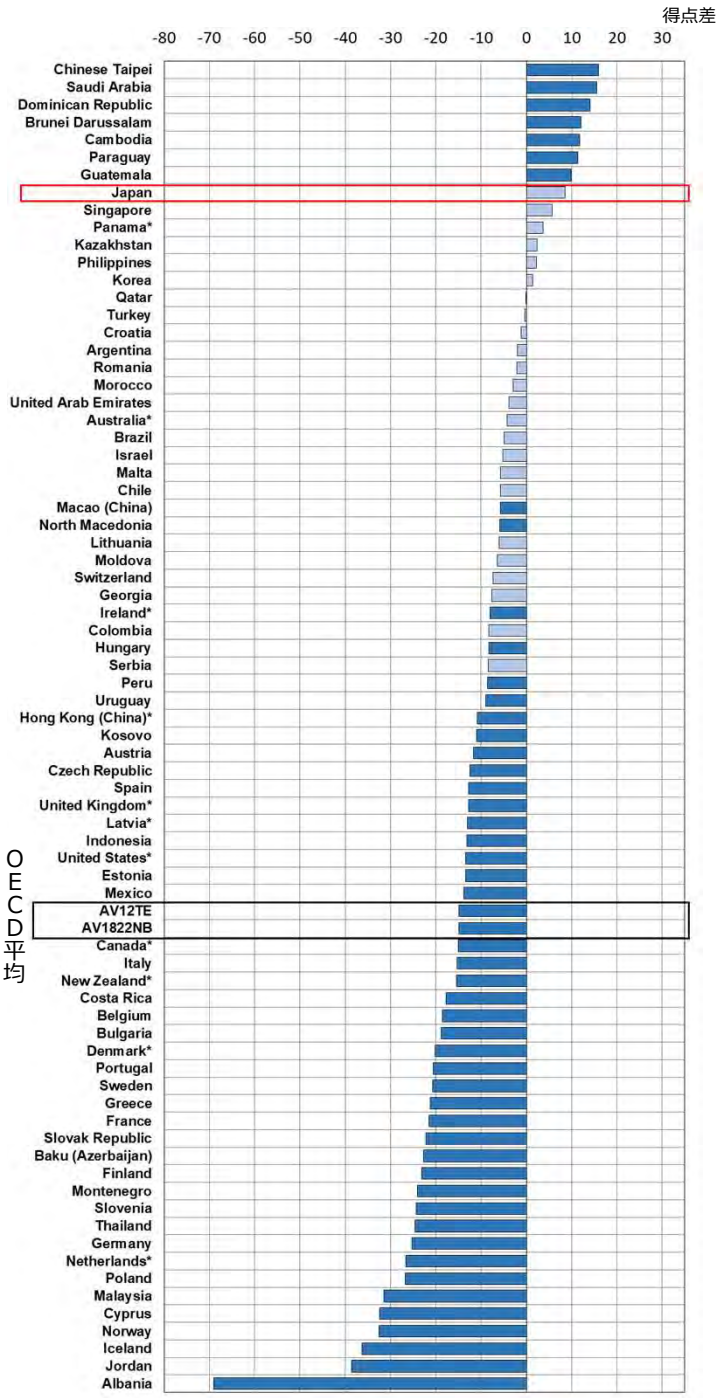
（iii）社会経済文化的水準の低い生徒（ESCS指標値の最下位25%群）と高い生徒（ESCS指標値の最上位25%群）のいずれも2018年から2022年にかけて数学的リテラシーの平均得点が安定又は向上していること（教育の社会経済的平等性Socio-economic parity）



側面①:数学の成績（2018年から2022年にかけての数学的リテラシーの得点の変化）

○数学的リテラシーの平均得点について、2018年から2022年にかけて、OECD平均はマイナス傾向となっているが、日本は下がっていない（得点は8.6点高いが統計的な有意差なし）。

（ｉ）各国の平均得点経年変化（2018→2022年）

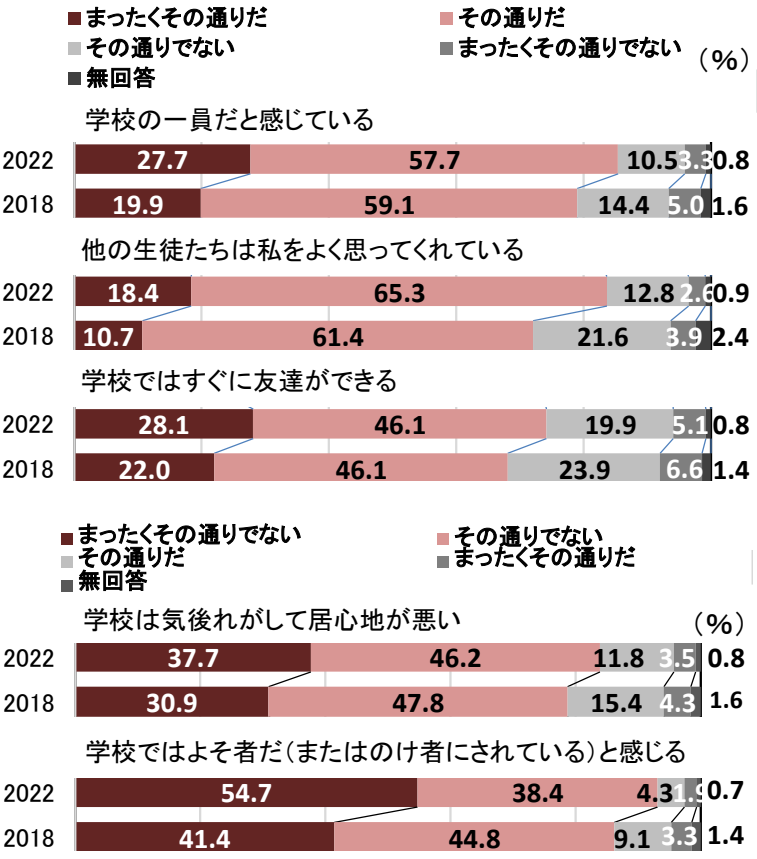


(注1) 統計的に有意な差は濃い色で示す。
(注2) OECD平均について二つの表記があるが、それぞれ意味するものは以下のとおり。
AV12TE　：2018年調査・2022年調査の両方に参加したOECD35か国の平均
AV1822NB　：2018年調査・2022年調査の両方に参加し、かつPISAサンプリング基準を満たしたOECD26か国の平均

側面②:教育におけるウェルビーイング（2018年から2022年にかけての学校への所属感の変化）

○OECD平均では生徒の学校への所属感は2018年から2022年にかけて悪化したが、日本は所属感が最も向上した。

（ii）生徒質問調査　問24　生徒の学校への所属感（日本、 2018→2022年）



（iii）生徒質問調査「生徒の学校への所属感」指標（2018→2022年）

（ｉｉ）の５項目を含む６項目の回答割合から指標値を算出。

	国	2018	2022
1	オーストリア	0.40	0.44
2	スイス	0.30	0.36
3	スペイン	0.46	0.27
4	ドイツ	0.28	0.27
5	韓国	0.28	0.26
6	**日本**	**0.02**	**0.25**
7	ノルウェー	0.36	0.23
8	アイスランド	0.10	0.16
9	ハンガリー	0.07	0.14
10	デンマーク	0.21	0.11
OECD平均		**0.00**	**-0.02**

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、学校への所属感が高いことを意味している。

側面③：教育の公平性（2018年から2022年にかけての公平性の変化）

○**【教育の社会経済的公正性】生徒の社会経済的地位による数学得点のばらつきの説明率がOECD平均より低く、数学的リテラシーの平均得点が2022年にOECD平均以上である。**（→P.12 生徒の「社会経済文化的背景」（ESCS）と数学的リテラシーの平均得点との関連）

○**【教育の社会経済的平等性】社会経済文化的水準の低い生徒（ESCS指標値の最下位25%群）と高い生徒（ESCS指標の最上位25%群）のいずれについても、2018年から2022の間に数学的リテラシーの平均得点が上昇している。**

(ⅳ) 社会経済文化的背景（ESCS）の水準別の2018～2022年間の変化

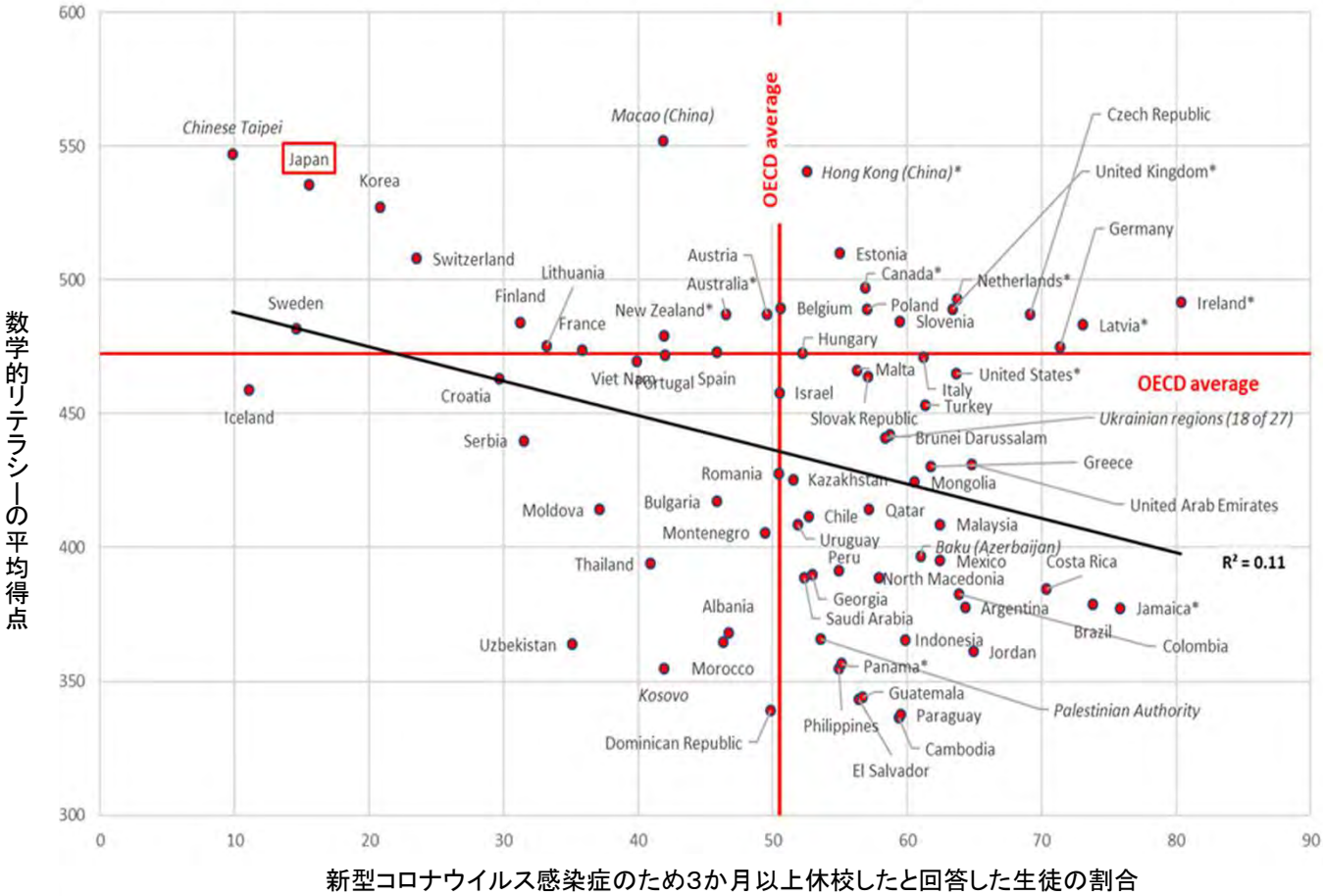
	数学
社会経済文化的水準の高い生徒（ESCS指標値の最上位25%群）の成績	+17.7
社会経済文化的水準の低い生徒（ESCS指標値の最下位25%群）の成績	+5.1

休校期間と数学的リテラシーの平均得点

○OECDの分析によれば、「新型コロナウイルス感染症のため3か月以上休校した」と回答した生徒の割合がより少ない国・地域は、より多い国・地域に比べて、数学的リテラシーの平均得点が高い傾向にあった。

○日本は、「新型コロナウイルス感染症のため3か月以上休校した」と回答した生徒の割合が15.5%と、OECD平均（50.3%）と比べ少なく、かつ数学的リテラシーの平均得点が高かった国の一つである。

新型コロナウイルス感染症による休校期間と数学的リテラシーの平均得点

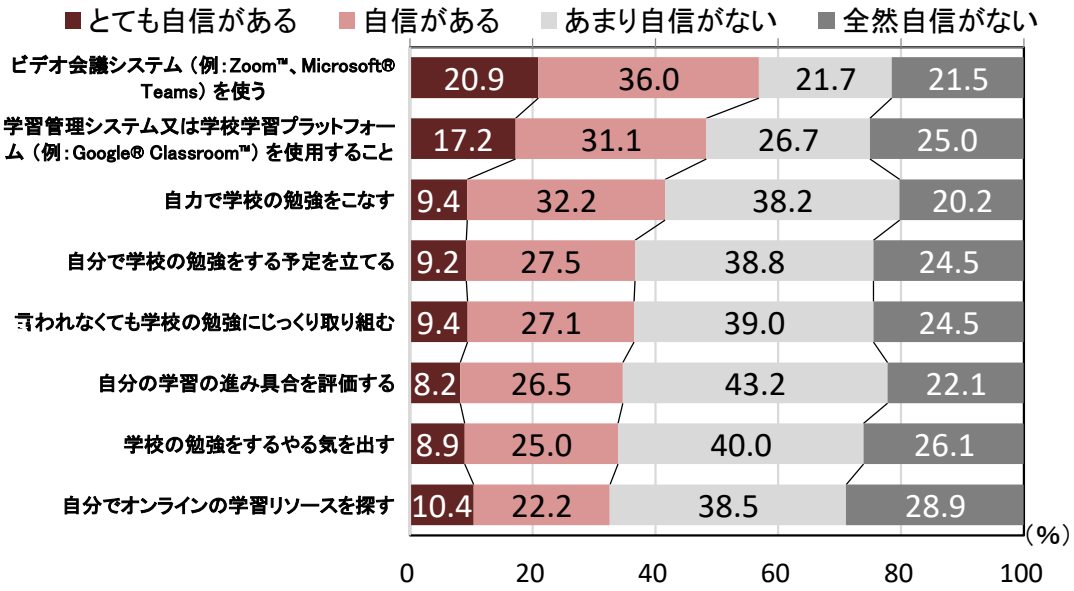


自律学習を行う自信

○学校が再び休校になった場合に自律学習を行う自信があるか、という質問に対する回答で、自信がないと回答した生徒が日本は非常に多かった。

生徒質問調査　問61　自律学習と自己効力感（日本）

「今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか。」



「自律学習と自己効力感」指標

左の８項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均		0.01
34位	日本	-0.68

※OECD加盟国37か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、自律学習に対する自己効力感（自信）が高いことを意味している。

○感染症の流行・災害の発生といった非常時のみならず、変化の激しい社会を生きる子供達が普段から自律的に学んでいくことができるような経験を重ねることは重要であり、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進により、自ら思考し、判断・表現する機会を充実したり、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような環境を整えたりするなど、自立した学習者の育成に向けた取組を進めていく必要がある。

(6) ICT活用状況

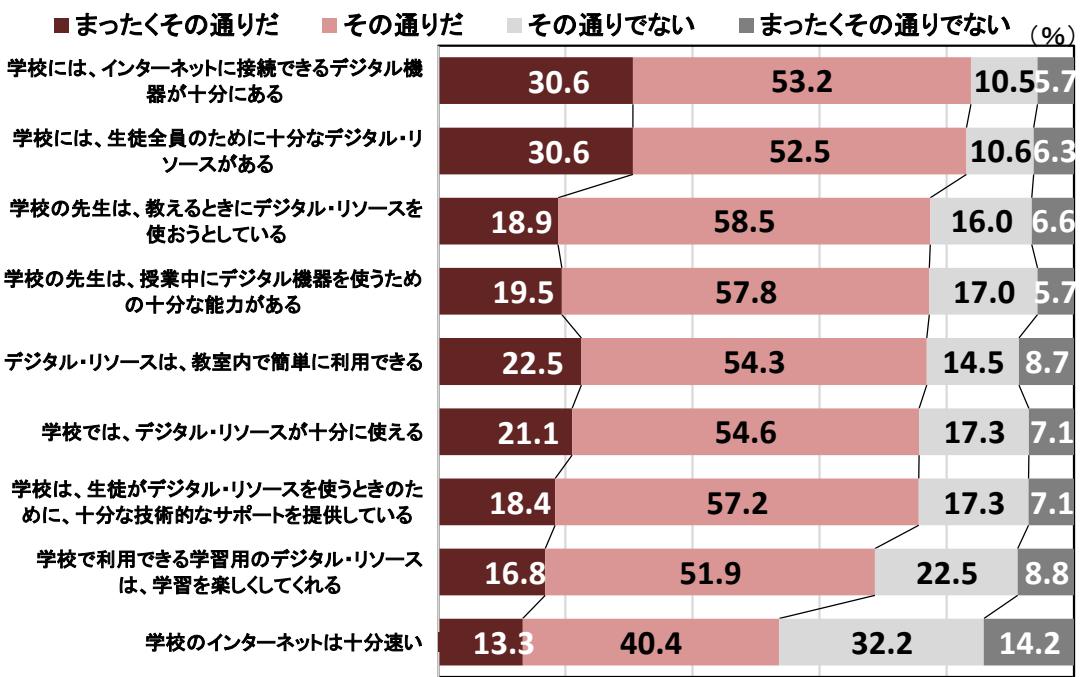
（注）高等学校における1人1台端末の環境整備は、令和4年度の1年生を対象に令和4年度中に完了させる計画で進められた。一方、PISA2022は、日本においては令和4年6月～8月に、国際的な規定に基づいて抽出された全国の高等学校1年生を対象に実施された。
　このため、PISA2022の結果、特にICT活用調査の結果を見る際には、本調査が高等学校における1人1台端末の整備の途上で実施されたものであることに留意する必要がある。

①学校での利用状況

○日本の高校におけるICT環境の整備は2018年調査以降進んでおり、「学校でのICTリソースの利用しやすさ」指標はOECD平均を上回っている。

（ｉ）ICT活用調査　問3　学校でのICTリソースの利用しやすさ（日本）

「次のようなことは、あなたにどれくらいあてはまりますか。」



（ii）ICT活用調査「学校でのICTリソースの利用しやすさ」指標

（ｉ）の9項目の回答割合から指標値を算出。

5位	日本	0.31
OECD平均		0.00

※ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、学校でのICTリソースの利用しやすいことを意味している。

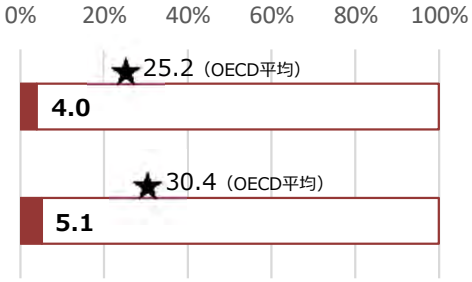
○日本の生徒は、授業中のICT機器の利用により注意散漫になることが、OECD諸国と比較すると少ない。

（iii）生徒質問調査　問35　数学の授業の雰囲気（日本）

「数学の授業で、次のようなことはどのくらいありますか。」

生徒は、他の生徒がデジタル・リソース（例：スマートフォン、ウェブサイト、アプリ）を使っているために気が散っている

生徒は、デジタル・リソース（例：スマートフォン、ウェブサイト、アプリ）を使っているために気が散っている。

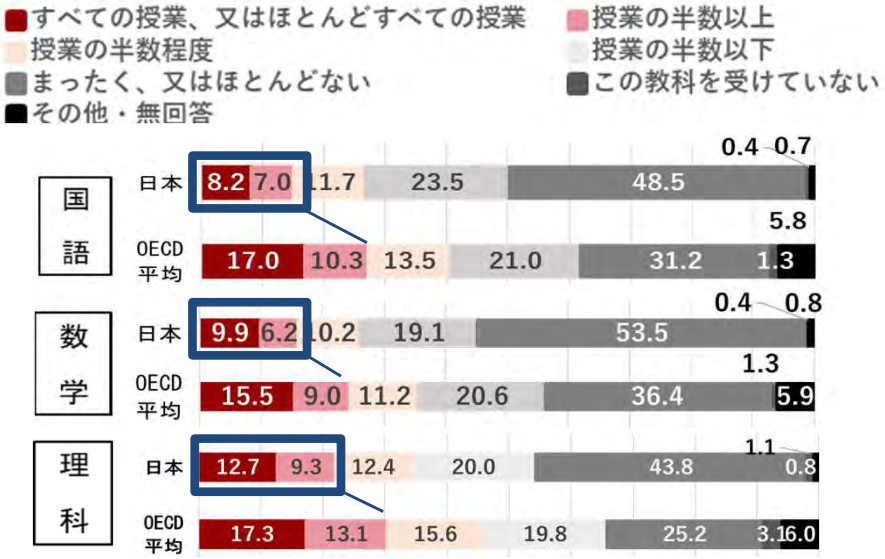


「いつもそうだ」「たいていそうだ」と回答した生徒の割合は、日本が全参加国の中で一番低い。

○日本の各教科の授業でのICTの利用頻度は、OECD諸国と比較すると低い。

（iv）ICT活用調査　問4　教科ごとでのICTの利用頻度

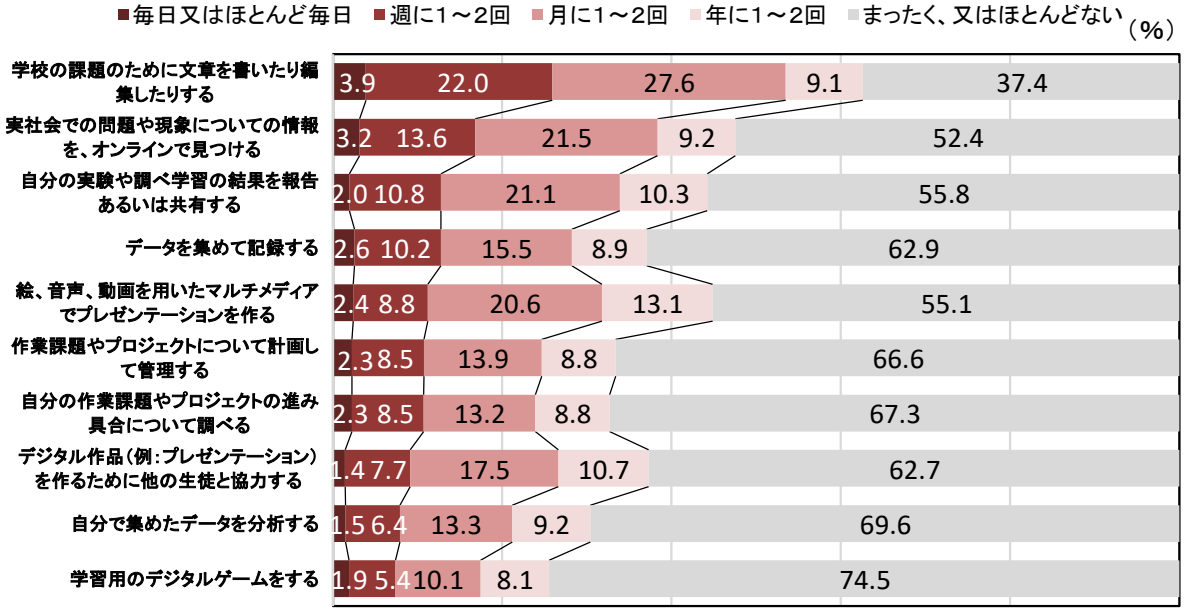
「次の授業でデジタル・リソースをどのくらい利用しますか。」



○高校生自身が情報を集める、集めた情報を記録する、分析する、報告するといった場面でデジタル・リソースを使う頻度は他国に比べて低く、「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標はOECD平均を下回っている。

（v）ICT活用調査　問5　ICTを用いた探究型の教育の頻度（日本）

「今年度、あなたは次の活動をするためにデジタル・リソースをどのくらい使いましたか。」



（vi）ICT活用調査「ICTを用いた探究型の教育の頻度」指標

（v）の10項目の回答割合から指標値を算出。

OECD平均	0.01
29位 日本	-0.82

※ ICT活用調査に参加したOECD加盟国29か国の平均値が0.0、標準偏差が1.0となるよう標準化されており、その値が大きいほど、ICTを用いた探究型の教育の頻度が高いことを意味している。

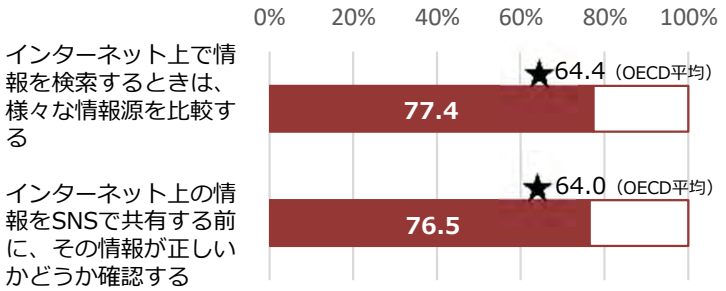
②生徒のICTに関する能力や興味・関心

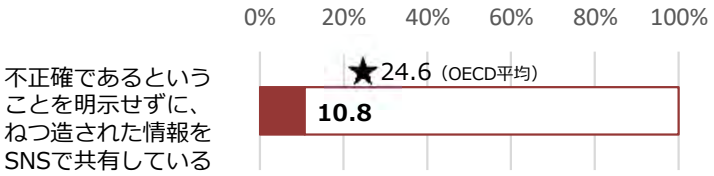
○日本の生徒の情報モラルは、 OECD諸国と比較すると高い。

（ｉ）ICT活用調査　問12　インターネット上の情報に対する考え方・実践（日本）

「次のようなことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。」

※「まったくその通りだ」「その通りだ」と回答した生徒の割合



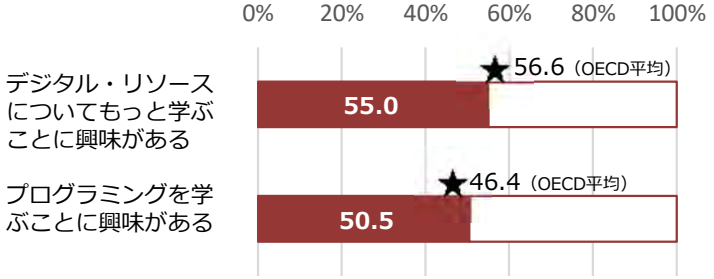


○日本の高校生はコンピュータやプログラミングへの興味・関心はOECD平均並みにあるが、プログラムを作成したりコンピュータでトラブルが起こった時に原因を特定したりできる自信はOECD諸国と比較すると低い。

（ii）ICT活用調査　問14　コンピュータ・プログラミングへの興味・関心（日本）

「次のようなことは、あなたにどのくらいあてはまりますか。」

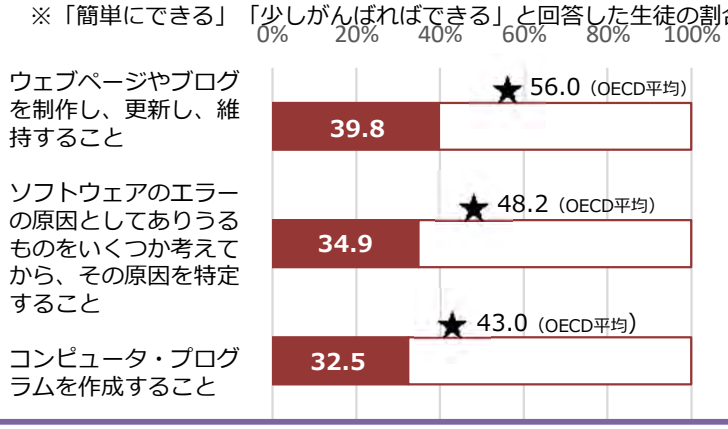
※「まったくその通りだ」「その通りだ」と回答した生徒の割合



（iii）ICT活用調査　問15　デジタル・コンピテンシーに対する自己効力感（日本）

「デジタル・リソースを使うとき、あなたは次のようなことがどのくらいできますか。」

※「簡単にできる」「少しがんばればできる」と回答した生徒の割合



③平日の余暇活動におけるICT利用

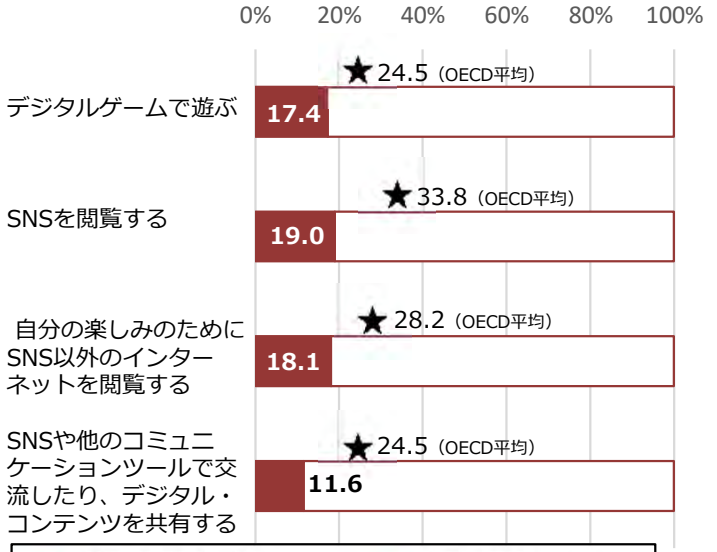
○SNSやデジタルゲームに費やす時間が３時間以上の生徒の割合は、OECD平均より少ない。

○日本もOECD平均も、 SNSやデジタルゲームに費やす時間が一定時間を超えると、3分野の得点は低下する傾向。

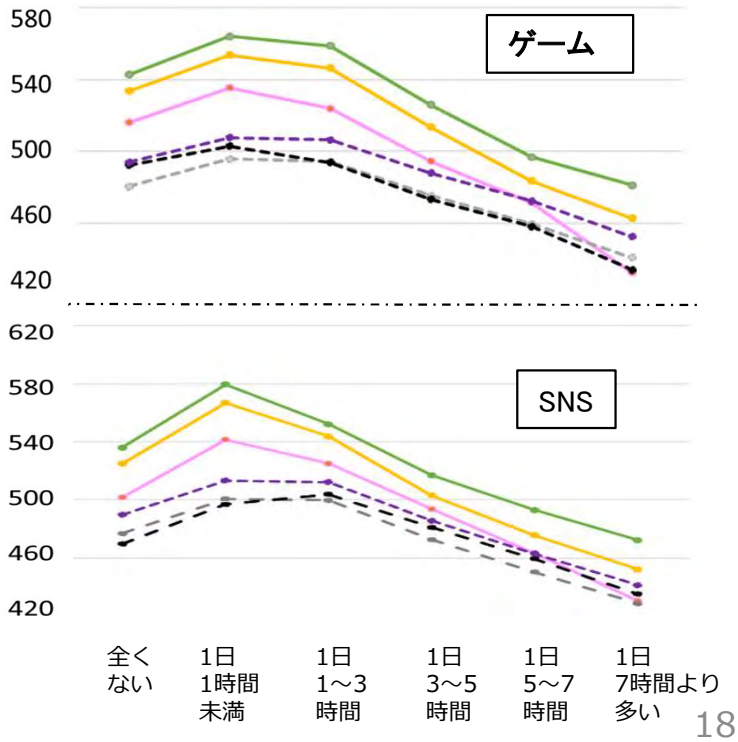
（ｉ）ICT活用調査　問９　平日の1日当たりに占める、様々なICT実践の時間

「学校のある日に、次の余暇活動にかける時間はどのくらいですか。」

※「１日３時間以上」と答えた割合



（ii）平日の余暇活動におけるICT利用時間別3分野の平均得点



3．PISA調査結果を踏まえた文部科学省の取組一覧

1．学習指導要領に基づく教育の着実な実施

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

・引き続き主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、実生活、実社会の様々な場面で直面する課題について自ら思考し、判断・表現できる力の育成に向けて取り組む。

・自立した学習者の育成に向けて、児童生徒一人一人の学習進度や興味・関心等に応じて教材や学ぶ方法等を選択できるような学習に関する国内の好事例の蓄積や情報提供を行う。

・児童生徒の学習の基盤となる言語能力の確実な育成に向けて、文章を正確に理解するために必要な語彙、情報の扱い方の確実な定着や各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図る。

・実社会・実生活の中から問いを見出し、自ら課題を立てて情報を収集・整理・分析してまとめ・表現するような探究的な学びを促進する。

(2) 理数教育の更なる充実

・実生活における課題を数学を使って解決する活動、実社会の問題の中から数学的な側面を見つける活動など、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し主体的に取り組む数学的活動の充実を図る。

・理科教育における、日常生活や社会との関連を重視する活動、自然の事物・現象を科学的に探究する活動の充実、及びそれらを行う上で必要となる観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間の充実を図る。

2．GIGAスクール構想の推進と情報教育の更なる充実

(1) GIGAスクール構想の推進

１人１台端末とクラウド環境による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図るため、GIGAスクール構想を着実に実施する。

①ハード面の整備

・１人１台端末について、十分な予備機も含め計画的に更新を実施する。指導者用端末１人１台を確実に整備する。

・GIGAスクール構想の阻害要因の一つであるネットワーク環境の改善を図るため、全国的にネットワーク診断（アセスメント）を推進する。

②ソフト面の充実

・端末活用に関する自治体や学校間格差を解消するため、令和5年度・6年度を集中推進期間と位置付け、国による伴走支援を徹底強化する。(リーディングDXスクール等による効果的な実践事例の創出・横展開等。)

・GIGA StuDXチームによるICTを活用した学習指導等の支援活動や、各分野の専門家アドバイザーの派遣を行う。

(2) 情報教育の更なる充実等

・プログラミング教育を充実する。
（小学校段階からのプログラミング教育の実施、中学校の技術分野においてプログラミングに関する内容を充実、高等学校の必履修科目として「情報Ⅰ」を新設、全ての生徒がプログラミング等について学習。）

・情報Ⅱの開設や探究学習の強化を図るために高等学校のDX化を全国的に推進する。

・情報モラル教育の更なる充実を図る。
（情報や危険な情報があることを考えさせる学習活動や真偽の検証（ファクトチェック）に関する授業の推進等。）

参考①　PISA(Programme for International Student Assessment)調査について

PISA調査とは

○義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査。

○読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、おおむね3年ごとに調査実施（PISA2022は新型コロナウイルス感染症の影響で2021年に予定されていた調査を2022年に延期して実施）。 各回で3分野のうちの1分野を順番に中心分野として重点的に調査。

○同じ調査問題を長期間使用することで得点の経年変化を見るため、問題は非公開（中心分野の一部のみ公開）。

○各分野の問題の組合せが異なる複数の問題フォーム（2022年調査は36種類）を使用。各生徒はそのうち1種類の問題フォームに2時間で解答。

○2015年調査より、筆記型調査からコンピュータ使用型調査に移行。

○調査結果の示し方：中心分野として実施した最初の年（読解力は2000年、数学的リテラシーは2003年、科学的リテラシーは2006年）のOECD加盟国平均得点を基準値（500点）とし、異なる実施年の結果が比較できるよう調整し、各国・各年の平均得点を算出。なお、平均得点を比較する場合は、数値の差を見るだけではなく、統計的に意味のある差（有意差）の有無の確認が重要。

2022年調査

◆中心分野は、数学的リテラシー。習熟度の測定の精度を高めるために、生徒の解答状況により自動的に難易度の異なる出題をする「多段階適応型テスト」を導入。

◆81か国・地域から約69万人が参加。我が国では、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校、約6000人が調査に参加（2022年6月から8月に実施）。

主要分野の定義

◆読解力

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

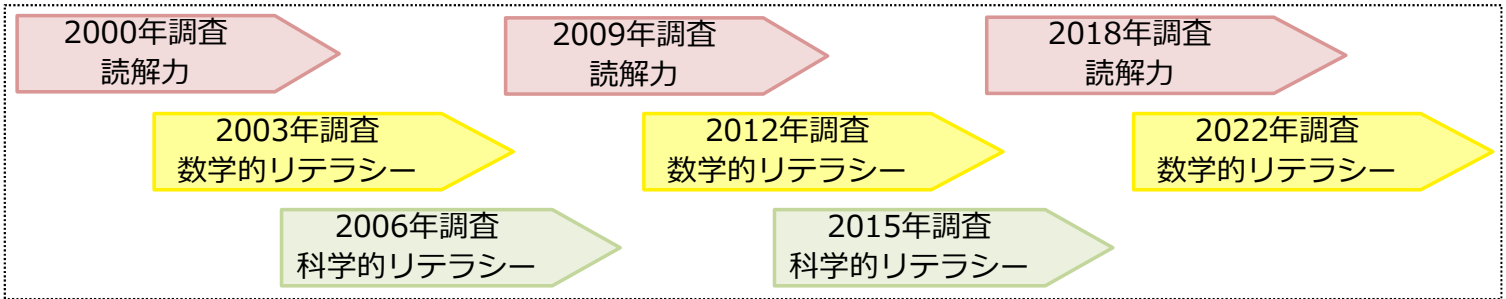
◆数学的リテラシー

数学的に推論し、現実世界の様々な文脈の中で問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力のことである。それは、事象を記述、説明、予測するために数学的な概念、手順、事実、ツールを使うことを含む。この能力は、現実社会において数学が果たす役割に精通し、建設的で積極的かつ思慮深い21世紀の市民に求められる、十分な根拠に基づく判断や意思決定をする助けとなるものである。

◆科学的リテラシー

思慮深い市民として、科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力。

PISA調査の中心分野



PISA調査に関する情報

☞　国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能①～③』（ぎょうせい）、『生きるための知識と技能４～７』（明石書店）

☞　Webページ

・国立教育政策研究所（http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/）

・OECD（http://www.oecd.org/pisa/）

参考②　PISAで測定する数学的リテラシーについて

◆数学的リテラシーの定義

数学的に推論し、現実世界の様々な文脈の中で問題を解決するために数学を定式化し、活用し、解釈する個人の能力のことである。それは、事象を記述、説明、予測するために数学的な概念、手順、事実、ツールを使うことを含む。

この能力は、現実社会において数学が果たす役割に精通し、建設的で積極的かつ思慮深い21世紀の市民に求められる、十分な根拠に基づく判断や意思決定をする助けとなるものである。

数学的リテラシーの３つの側面

・数学的なプロセス

数学的推論	数学的な概念、ツール、論理を用いて、現実の問題や状況を概念化し、解決策を生み出す能力のこと。
定式化	現実世界で遭遇する問題の根底にある数学的概念や考え方を認識・識別し、その問題に数学的構造を与える（数学用語で定式化する）こと。
活用	数学的に定式化された問題を解くために適切な数学的手段を活用し、数学的結論を得ること。
解釈	数学的な解、結果、または結論を評価し、そのプロセスを開始した現実の問題の文脈で解釈すること。

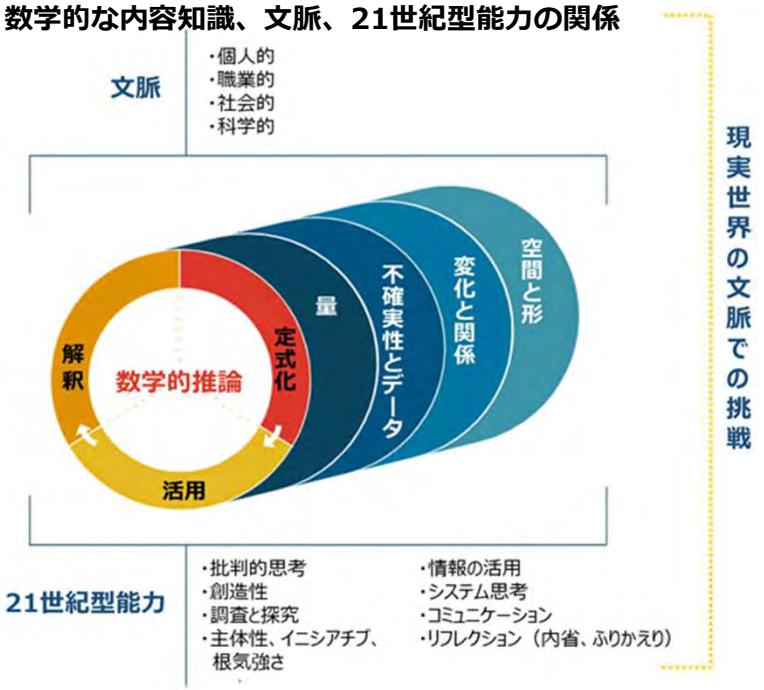
・数学的な内容知識

量	数の感覚と推定。世界に存在するものの属性、物体、関係、状況を数量化し、数量化したものを様々な形で表したものを理解し、数量に基づいた解釈や議論を評価すること。
不確実性とデータ	現実世界におけるばらつきがどこにあるかを認識し、そのばらつきを数量化する感覚を持ち、関連する推論においてその不確実性と誤差を認識すること。また、不確実性が存在する状況で導かれる結論の形成、解釈、評価も含む。確率の基礎的知識や、データの提示と解釈もこのカテゴリーに含まれる。
変化と関係	数学的モデルを用いて変化を記述し予測するために、基本的な変化の種類と、それがいつ起こるかを理解する。適切な関数や 方程式/不等式を理解し、関係を示すグラフを作成したり、解釈したり、変換したりすること。
空間と形	物体の特性、空間的視覚化、位置と方向、物体の表象（表現）、視覚情報のデコーディングとエンコーディング、ナビゲーションと現実の図形との動的相互作用、表象、移動、変位、空間内での行動を予測する能力。

・文脈

個人的	自分自身や家族、友人に焦点を当てる。
職業的	仕事の世界に関連すること。
社会的	地域的、国家的、地球規模的な共同体に関連すること。
科学的	自然界への数学の応用、科学技術に関連する問題や話題に関連すること。

数学的リテラシー：数学的推論、問題解決サイクル、数学的な内容知識、文脈、21世紀型能力の関係



数学的リテラシーの問題の領域と出題形式別問題数

	数学的リテラシーの領域	記述形式	選択肢形式
プロセス	数学的推論	27	27
	定式化	20	28
	活用	27	48
	解釈	13	44
	計	87	147
内容知識	量	28	48
	不確実性とデータ	19	41
	変化と関係	23	32
	空間と形	17	26
	計	87	147
文脈	個人的	22	38
	職業的	20	30
	社会的	19	35
	科学的	26	44
	計	87	147

日本の学習指導要領（算数・数学）とPISA

我が国の中学校学習指導要領においても、
・数量や図形などの基礎的な概念や原理・原則などを理解するとともに、事象を数学的に表現・処理したりする技能、
・数学を活用して事象を論理的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力、
・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度
などの資質・能力を育成することを目指しており、PISAで測定する数学的リテラシーと共通する部分があるものと考えられる。

参考③　PISA2022年調査の国際比較（3分野の結果一覧）

	数学的リテラシー	平均得点	読解力	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	シンガポール	575	シンガポール	543	シンガポール	561
2	マカオ	552	アイルランド*	516	日本	547
3	台湾	547	日本	516	マカオ	543
4	香港*	540	韓国	515	台湾	537
5	日本	536	台湾	515	韓国	528
6	韓国	527	エストニア	511	エストニア	526
7	エストニア	510	マカオ	510	香港*	520
8	スイス	508	カナダ*	507	カナダ*	515
9	カナダ*	497	アメリカ*	504	フィンランド	511
10	オランダ*	493	ニュージーランド*	501	オーストラリア*	507
11	アイルランド*	492	香港*	500	ニュージーランド*	504
12	ベルギー	489	オーストラリア*	498	アイルランド*	504
13	デンマーク*	489	イギリス*	494	スイス	503
14	イギリス*	489	フィンランド	490	スロベニア	500
15	ポーランド	489	デンマーク*	489	イギリス*	500
16	オーストリア	487	ポーランド	489	アメリカ*	499
17	オーストラリア*	487	チェコ	489	ポーランド	499
18	チェコ	487	スウェーデン	487	チェコ	498
19	スロベニア	485	スイス	483	ラトビア*	494
20	フィンランド	484	イタリア	482	デンマーク*	494
21	ラトビア*	483	オーストリア	480	スウェーデン	494
22	スウェーデン	482	ドイツ	480	ドイツ	492
23	ニュージーランド*	479	ベルギー	479	オーストリア	491
24	リトアニア	475	ポルトガル	477	ベルギー	491
25	ドイツ	475	ノルウェー	477	オランダ*	488
26	フランス	474	クロアチア	475	フランス	487
27	スペイン	473	ラトビア*	475	ハンガリー	486
28	ハンガリー	473	スペイン	474	スペイン	485
29	ポルトガル	472	フランス	474	リトアニア	484
30	イタリア	471	イスラエル	474	ポルトガル	484
31	ベトナム※	469	ハンガリー	473	クロアチア	483
32	ノルウェー	468	リトアニア	472	ノルウェー	478
33	マルタ	466	スロベニア	469	イタリア	477
34	アメリカ*	465	ベトナム※	462	トルコ	476
35	スロバキア	464	オランダ*	459	ベトナム※	472
36	クロアチア	463	トルコ	456	マルタ	466
37	アイスランド	459	チリ	448	イスラエル	465
38	イスラエル	458	スロバキア	447	スロバキア	462
39	トルコ	453	マルタ	445	ウクライナ	450
40	ブルネイ	442	セルビア	440	セルビア	447
41	ウクライナ	441	ギリシャ	438	アイスランド	447
42	セルビア	440	アイスランド	436	ブルネイ	446
43	アラブ首長国連邦	431	ウルグアイ	430	チリ	444
44	ギリシャ	430	ブルネイ	429	ギリシャ	441
45	ルーマニア	428	ルーマニア	428	ウルグアイ	435
46	カザフスタン	425	ウクライナ	428	カタール	432
47	モンゴル	425	カタール	419	アラブ首長国連邦	432
48	キプロス	418	アラブ首長国連邦	417	ルーマニア	428
49	ブルガリア	417	メキシコ	415	カザフスタン	423
50	モルドバ	414	コスタリカ	415	ブルガリア	421
51	カタール	414	モルドバ	411	モルドバ	417
52	チリ	412	ブラジル	410	マレーシア	416
53	ウルグアイ	409	ジャマイカ*	410	モンゴル	412
54	マレーシア	409	コロンビア	409	コロンビア	411
55	モンテネグロ	406	ペルー	408	コスタリカ	411
56	バクー（アゼルバイジャン）	397	モンテネグロ	405	キプロス	411
57	メキシコ	395	ブルガリア	404	メキシコ	410
58	タイ	394	アルゼンチン	401	タイ	409
59	ペルー	391	パナマ*	392	ペルー	408
60	ジョージア	390	マレーシア	388	アルゼンチン	406
61	サウジアラビア	389	カザフスタン	386	モンテネグロ	403
62	北マケドニア	389	サウジアラビア	383	ブラジル	403
63	コスタリカ	385	キプロス	381	ジャマイカ*	403
64	コロンビア	383	タイ	379	サウジアラビア	390
65	ブラジル	379	モンゴル	378	パナマ*	388
66	アルゼンチン	378	グアテマラ※	374	ジョージア	384
67	ジャマイカ*	377	ジョージア	374	インドネシア	383
68	アルバニア	368	パラグアイ※	373	バクー（アゼルバイジャン）	380
69	パレスチナ	366	バクー（アゼルバイジャン）	365	北マケドニア	380
70	インドネシア	366	エルサルバドル	365	アルバニア	376
71	モロッコ	365	インドネシア	359	ヨルダン	375
72	ウズベキスタン	364	北マケドニア	359	エルサルバドル	373
73	ヨルダン	361	アルバニア	358	グアテマラ※	373
74	パナマ*	357	ドミニカ共和国	351	パレスチナ	369
75	コソボ	355	パレスチナ	349	パラグアイ※	368
76	フィリピン	355	フィリピン	347	モロッコ	365
77	グアテマラ※	344	コソボ	342	ドミニカ共和国	360
78	エルサルバドル	343	ヨルダン	342	コソボ	357
79	ドミニカ共和国	339	モロッコ	339	フィリピン	356
80	パラグアイ※	338	ウズベキスタン	336	ウズベキスタン	355
81	カンボジア※	336	カンボジア※	329	カンボジア※	347
	OECD平均	472	OECD平均	476	OECD平均	485
	信頼区間（日本）：530 － 541		信頼区間（日本）：510 － 522		信頼区間（日本）：541 － 552	

（注）※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，＊はPISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

国　名　OECD加盟国
国　名　非OECD加盟国
平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
平均得点　OECD平均よりも統計的に有意差がない国・地域
平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

【参考】 PISA調査　数学的リテラシー国際比較

	2003年	平均得点	2006年	平均得点	2009年	平均得点	2012年	平均得点	2015年	平均得点	2018年	平均得点	2022年	平均得点
1	香港	550	台湾	549	上海	600	上海	613	シンガポール	564	北京・上海・江蘇・浙江	591	シンガポール	575
2	フィンランド	544	フィンランド	548	シンガポール	562	シンガポール	573	香港	548	シンガポール	569	マカオ	552
3	韓国	542	香港	547	香港	555	香港	561	マカオ	544	マカオ	558	台湾	547
4	オランダ	538	韓国	547	韓国	546	台湾	560	台湾	542	香港	551	香港*	540
5	リヒテンシュタイン	536	オランダ	531	台湾	543	韓国	554	日本	532	台湾	531	日本	536
6	日本	534	スイス	530	フィンランド	541	マカオ	538	北京・上海・江蘇・広東	531	日本	527	韓国	527
7	カナダ	532	カナダ	527	リヒテンシュタイン	536	日本	536	韓国	524	韓国	526	エストニア	510
8	ベルギー	529	マカオ	525	スイス	534	リヒテンシュタイン	535	スイス	521	エストニア	523	スイス	508
9	マカオ	527	リヒテンシュタイン	525	日本	529	スイス	531	エストニア	520	オランダ	519	カナダ*	497
10	スイス	527	日本	523	カナダ	527	オランダ	523	カナダ	516	ポーランド	516	オランダ*	493
11	オーストラリア	524	ニュージーランド	522	オランダ	526	エストニア	521	オランダ	512	スイス	515	アイルランド*	492
12	ニュージーランド	523	ベルギー	520	マカオ	525	フィンランド	519	デンマーク	511	カナダ	512	ベルギー	489
13	チェコ	516	オーストラリア	520	ニュージーランド	519	カナダ	518	フィンランド	511	デンマーク	509	デンマーク*	489
14	アイスランド	515	エストニア	515	ベルギー	515	ポーランド	518	スロベニア	510	スロベニア	509	イギリス*	489
15	デンマーク	514	デンマーク	513	オーストラリア	514	ベルギー	515	ベルギー	507	ベルギー	508	ポーランド	489
16	フランス	511	チェコ	510	ドイツ	513	ドイツ	514	ドイツ	506	フィンランド	507	オーストリア	487
17	スウェーデン	509	アイスランド	506	エストニア	512	ベトナム	511	ポーランド	504	スウェーデン	502	オーストラリア*	487
18	オーストリア	506	オーストリア	505	アイスランド	507	オーストリア	506	アイルランド	504	イギリス	502	チェコ	487
19	ドイツ	503	スロベニア	504	デンマーク	503	オーストラリア	504	ノルウェー	502	ノルウェー	501	スロベニア	485
20	アイルランド	503	ドイツ	504	スロベニア	501	アイルランド	501	オーストリア	497	ドイツ	500	フィンランド	484
21	スロバキア	498	スウェーデン	502	ノルウェー	498	スロベニア	501	ニュージーランド	495	アイルランド	500	ラトビア*	483
22	ノルウェー	495	アイルランド	501	フランス	497	デンマーク	500	ベトナム※	495	チェコ	499	スウェーデン	482
23	ルクセンブルク	493	フランス	496	スロバキア	497	ニュージーランド	500	ロシア	494	オーストリア	499	ニュージーランド*	479
24	ポーランド	490	イギリス	495	オーストリア	496	チェコ	499	スウェーデン	494	ラトビア	496	リトアニア	475
25	ハンガリー	490	ポーランド	495	ポーランド	495	フランス	495	オーストラリア	494	フランス	495	ドイツ	475
26	スペイン	485	スロバキア	492	スウェーデン	494	イギリス	494	フランス	493	アイスランド	495	フランス	474
27	ラトビア	483	ハンガリー	491	チェコ	493	アイスランド	493	イギリス	492	ニュージーランド	494	スペイン	473
28	アメリカ	483	ルクセンブルク	490	イギリス	492	ラトビア	491	チェコ	492	ポルトガル	492	ハンガリー	473
29	ロシア	468	ノルウェー	490	ハンガリー	490	ルクセンブルク	490	ポルトガル	492	オーストラリア	491	ポルトガル	472
30	ポルトガル	466	リトアニア	486	ルクセンブルク	489	ノルウェー	489	イタリア	490	ロシア	488	イタリア	471
31	イタリア	466	ラトビア	486	アメリカ	487	ポルトガル	487	アイスランド	488	イタリア	487	ベトナム※	469
32	ギリシャ	445	スペイン	480	アイルランド	487	イタリア	485	スペイン	486	スロバキア	486	ノルウェー	468
33	セルビア・モンテネグロ	437	アゼルバイジャン	476	ポルトガル	487	スペイン	484	ルクセンブルク	486	ルクセンブルク	483	マルタ	466
34	トルコ	423	ロシア	476	スペイン	483	ロシア	482	ラトビア	482	スペイン	481	アメリカ*	465
35	ウルグアイ	422	アメリカ	474	イタリア	483	スロバキア	482	マルタ※	479	リトアニア	481	スロバキア	464
36	タイ	417	クロアチア	467	ラトビア	482	アメリカ	481	リトアニア	478	ハンガリー	481	クロアチア	463
37	メキシコ	385	ポルトガル	466	リトアニア	477	リトアニア	479	ハンガリー	477	アメリカ	478	アイスランド	459
38	インドネシア	360	イタリア	462	ロシア	468	スウェーデン	478	スロバキア	475	ベラルーシ	472	イスラエル	458
39	チュニジア	359	ギリシャ	459	ギリシャ	466	ハンガリー	477	イスラエル	470	マルタ	472	トルコ	453
40	ブラジル	356	イスラエル	442	クロアチア	460	クロアチア	471	アメリカ	470	クロアチア	464	ブルネイ	442
41			セルビア	435	ドバイ	453	イスラエル	466	クロアチア	464	イスラエル	463	ウクライナ	441
42			ウルグアイ	427	イスラエル	447	ギリシャ	453	ブエノスアイレス※	456	トルコ	454	セルビア	440
43			トルコ	424	トルコ	445	セルビア	449	ギリシャ	454	ウクライナ※	453	アラブ首長国連邦	431
44			タイ	417	セルビア	442	トルコ	448	ルーマニア※	444	ギリシャ	451	ギリシャ	430
45			ルーマニア	415	アゼルバイジャン	431	ルーマニア	445	ブルガリア	441	キプロス	451	ルーマニア	428
46			ブルガリア	413	ブルガリア	428	キプロス	440	キプロス	437	セルビア	448	カザフスタン	425
47			チリ	411	ルーマニア	427	ブルガリア	439	アラブ首長国連邦	427	マレーシア	440	モンゴル	425
48			メキシコ	406	ウルグアイ	427	アラブ首長国連邦	434	チリ	423	アルバニア	437	キプロス	418
49			モンテネグロ	399	チリ	421	カザフスタン	432	トルコ	420	ブルガリア	436	ブルガリア	417
50			インドネシア	391	タイ	419	タイ	427	モルドバ※	420	アラブ首長国連邦	435	モルドバ	414
51			ヨルダン	384	メキシコ	419	チリ	423	ウルグアイ	418	ブルネイ	430	カタール	414
52			アルゼンチン	381	トリニダード・トバゴ	414	マレーシア	421	モンテネグロ	418	ルーマニア※	430	チリ	412
53			コロンビア	370	カザフスタン	405	メキシコ	413	トリニダード・トバゴ※	417	モンテネグロ	430	ウルグアイ	409
54			ブラジル	370	モンテネグロ	403	モンテネグロ	410	タイ	415	カザフスタン	423	マレーシア	409
55			チュニジア	365	アルゼンチン	388	ウルグアイ	409	アルバニア※	413	モルドバ※	421	モンテネグロ	406
56			カタール	318	ヨルダン	387	コスタリカ	407	メキシコ	408	バクー（アゼルバイジャン）	420	バクー（アゼルバイジャン）	397
57			キルギス	311	ブラジル	386	アルバニア	394	ジョージア※	404	タイ	419	メキシコ	395
58					コロンビア	381	ブラジル	391	カタール	402	ウルグアイ	418	タイ	394
59					アルバニア	377	アルゼンチン	388	コスタリカ	400	チリ	417	ペルー	391
60					チュニジア	371	チュニジア	388	レバノン※	396	カタール	414	ジョージア	390
61					インドネシア	371	ヨルダン	386	コロンビア	390	メキシコ	409	サウジアラビア	389
62					カタール	368	コロンビア	376	ペルー	387	ボスニア・ヘルツェゴビナ	406	北マケドニア	389
63					ペルー	365	カタール	376	インドネシア※	386	コスタリカ	402	コスタリカ	385
64					パナマ	360	インドネシア	375	ヨルダン※	380	ペルー	400	コロンビア	383
65					キルギス	331	ペルー	368	ブラジル	377	ヨルダン※	400	ブラジル	379
66									マケドニア※	371	ジョージア	398	アルゼンチン	378
67									チュニジア	367	北マケドニア※	394	ジャマイカ*	377
68									コソボ※	362	レバノン※	393	アルバニア	368
69									アルジェリア※	360	コロンビア	391	パレスチナ	366
70									ドミニカ共和国	328	ブラジル	384	インドネシア	366
71											アルゼンチン※	379	モロッコ	365
72											インドネシア	379	ウズベキスタン	364
73											サウジアラビア※	373	ヨルダン	361
74											モロッコ	368	パナマ*	357
75											コソボ	366	コソボ	355
76											パナマ	353	フィリピン	355
77											フィリピン	353	グアテマラ※	344
78											ドミニカ共和国	325	エルサルバドル	343
79													ドミニカ共和国	339
80													パラグアイ※	338
81													カンボジア※	336
	OECD平均	500	OECD平均	498	OECD平均	496	OECD平均	494	OECD平均	490	OECD平均	489	OECD平均	472

国　名　OECD加盟国
国　名　非OECD加盟国

平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
平均得点　OECD平均と統計的な有意差がない国・地域
平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

（注）1. 2003 年調査において国際的な実施基準を満たさなかったイギリスは除く。
2. 2015 年調査において、※は、コンピュータ使用型調査の実施ではなく、筆記型調査で実施した国を示す。また、国際基準を満たさなかったアルゼンチン、カザフスタン、マレーシアは除く。
3. 2018 年調査において、※は、コンピュータ使用型調査の実施ではなく、筆記型調査で実施した国を示す。また、国際基準を満たさなかったベトナムは除く。
4. 2022 年調査において、※は、コンピュータ使用型調査の実施ではなく、筆記型調査で実施した国を示す。また、＊は、PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

【参考】 PISA調査　読解力国際比較

	2000年	平均得点	2003年	平均得点	2006年	平均得点	2009年	平均得点	2012年	平均得点	2015年	平均得点	2018年	平均得点	2022年	平均得点
1	フィンランド	546	フィンランド	543	韓国	556	上海	556	上海	570	シンガポール	535	北京・上海・江蘇・浙江	555	シンガポール	543
2	カナダ	534	韓国	534	フィンランド	547	韓国	539	香港	545	香港	527	シンガポール	549	アイルランド*	516
3	ニュージーランド	529	カナダ	528	香港	536	フィンランド	536	シンガポール	542	カナダ	527	マカオ	525	日本	516
4	オーストラリア	528	オーストラリア	525	カナダ	527	香港	533	日本	538	フィンランド	526	香港	524	韓国	515
5	アイルランド	527	リヒテンシュタイン	525	ニュージーランド	521	シンガポール	526	韓国	536	アイルランド	521	エストニア	523	台湾	515
6	韓国	525	ニュージーランド	522	アイルランド	517	カナダ	524	フィンランド	524	エストニア	519	カナダ	520	エストニア	511
7	イギリス	523	アイルランド	515	オーストラリア	513	ニュージーランド	521	アイルランド	523	韓国	517	フィンランド	520	マカオ	510
8	日本	522	スウェーデン	514	リヒテンシュタイン	510	日本	520	台湾	523	日本	516	アイルランド	518	カナダ*	507
9	スウェーデン	516	オランダ	513	ポーランド	508	オーストラリア	515	カナダ	523	ノルウェー	513	韓国	514	アメリカ*	504
10	オーストリア	507	香港	510	スウェーデン	507	オランダ	508	ポーランド	518	ニュージーランド	509	ポーランド	512	ニュージーランド*	501
11	ベルギー	507	ベルギー	507	オランダ	507	ベルギー	506	エストニア	516	ドイツ	509	スウェーデン	506	香港*	500
12	アイスランド	507	ノルウェー	500	ベルギー	501	ノルウェー	503	リヒテンシュタイン	516	マカオ	509	ニュージーランド	506	オーストラリア*	498
13	ノルウェー	505	スイス	499	エストニア	501	エストニア	501	ニュージーランド	512	ポーランド	506	アメリカ	505	イギリス*	494
14	フランス	505	日本	498	スイス	499	スイス	501	オーストラリア	512	スロベニア	505	イギリス	504	フィンランド	490
15	アメリカ	504	マカオ	498	日本	498	ポーランド	500	オランダ	511	オランダ	503	日本	504	デンマーク*	489
16	デンマーク	497	ポーランド	497	台湾	496	アイスランド	500	ベルギー	509	オーストラリア	503	オーストラリア	503	ポーランド	489
17	スイス	494	フランス	496	イギリス	495	アメリカ	500	スイス	509	スウェーデン	500	台湾	503	チェコ	489
18	スペイン	493	アメリカ	495	ドイツ	495	リヒテンシュタイン	499	マカオ	509	デンマーク	500	デンマーク	501	スウェーデン	487
19	チェコ	492	デンマーク	492	デンマーク	494	スウェーデン	497	ベトナム	508	フランス	499	ノルウェー	499	スイス	483
20	イタリア	487	アイスランド	492	スロベニア	494	ドイツ	497	ドイツ	508	ベルギー	499	ドイツ	498	イタリア	482
21	ドイツ	484	ドイツ	491	マカオ	492	アイルランド	496	フランス	505	ポルトガル	498	スロベニア	495	オーストリア	480
22	リヒテンシュタイン	483	オーストリア	491	オーストリア	490	フランス	496	ノルウェー	504	イギリス	498	ベルギー	493	ドイツ	480
23	ハンガリー	480	ラトビア	491	フランス	488	台湾	495	イギリス	499	台湾	497	フランス	493	ベルギー	479
24	ポーランド	479	チェコ	489	アイスランド	484	デンマーク	495	アメリカ	498	アメリカ	497	ポルトガル	492	ポルトガル	477
25	ギリシャ	474	ハンガリー	482	ノルウェー	484	イギリス	494	デンマーク	496	スペイン	496	チェコ	490	ノルウェー	477
26	ポルトガル	470	スペイン	481	チェコ	483	ハンガリー	494	チェコ	493	ロシア	495	オランダ	485	クロアチア	475
27	ロシア	462	ルクセンブルク	479	ハンガリー	482	ポルトガル	489	イタリア	490	北京・上海・江蘇・広東	494	オーストリア	484	ラトビア*	475
28	ラトビア	458	ポルトガル	478	ラトビア	479	マカオ	487	オーストリア	490	スイス	492	スイス	484	スペイン	474
29	ルクセンブルク	441	イタリア	476	ルクセンブルク	479	イタリア	486	ラトビア	489	ラトビア	488	クロアチア	479	フランス	474
30	メキシコ	422	ギリシャ	472	クロアチア	477	ラトビア	484	ハンガリー	488	チェコ	487	ラトビア	479	イスラエル	474
31	ブラジル	396	スロバキア	469	ポルトガル	472	スロベニア	483	スペイン	488	クロアチア	487	ロシア	479	ハンガリー	473
32			ロシア	442	リトアニア	470	ギリシャ	483	ルクセンブルク	488	ベトナム※	487	イタリア	476	リトアニア	472
33			トルコ	441	イタリア	469	スペイン	481	ポルトガル	488	オーストリア	485	ハンガリー	476	スロベニア	469
34			ウルグアイ	434	スロバキア	466	チェコ	478	イスラエル	486	イタリア	485	リトアニア	476	ベトナム※	462
35			タイ	420	スペイン	461	スロバキア	477	クロアチア	485	アイスランド	482	アイスランド	474	オランダ*	459
36			セルビア・モンテネグロ	412	ギリシャ	460	クロアチア	476	スウェーデン	483	ルクセンブルク	481	ベラルーシ	474	トルコ	456
37			ブラジル	403	トルコ	447	イスラエル	474	アイスランド	483	イスラエル	479	イスラエル	470	チリ	448
38			メキシコ	400	チリ	442	ルクセンブルク	472	スロベニア	481	ブエノスアイレス※	475	ルクセンブルク	470	スロバキア	447
39			インドネシア	382	ロシア	440	オーストリア	470	リトアニア	477	リトアニア	472	ウクライナ※	466	マルタ	445
40			チュニジア	375	イスラエル	439	リトアニア	468	ギリシャ	477	ハンガリー	470	トルコ	466	セルビア	440
41					タイ	417	トルコ	464	トルコ	475	ギリシャ	467	スロバキア	458	ギリシャ	438
42					ウルグアイ	413	ドバイ	459	ロシア	475	チリ	459	ギリシャ	457	アイスランド	436
43					メキシコ	410	ロシア	459	スロバキア	463	スロバキア	453	チリ	452	ウルグアイ	430
44					ブルガリア	402	チリ	449	キプロス	449	マルタ※	447	マルタ	448	ブルネイ	429
45					セルビア	401	セルビア	442	セルビア	446	キプロス	443	セルビア	439	ルーマニア	428
46					ヨルダン	401	ブルガリア	429	アラブ首長国連邦	442	ウルグアイ	437	アラブ首長国連邦	432	ウクライナ	428
47					ルーマニア	396	ウルグアイ	426	チリ	441	ルーマニア※	434	ルーマニア※	428	カタール	419
48					インドネシア	393	メキシコ	425	タイ	441	アラブ首長国連邦	434	ウルグアイ	427	アラブ首長国連邦	417
49					ブラジル	393	ルーマニア	424	コスタリカ	441	ブルガリア	432	コスタリカ	426	メキシコ	415
50					モンテネグロ	392	タイ	421	ルーマニア	438	トルコ	428	キプロス	424	コスタリカ	415
51					コロンビア	385	トリニダード・トバゴ	416	ブルガリア	436	コスタリカ	427	モルドバ※	424	モルドバ	411
52					チュニジア	380	コロンビア	413	メキシコ	424	トリニダード・トバゴ※	427	モンテネグロ	421	ブラジル	410
53					アルゼンチン	374	ブラジル	412	モンテネグロ	422	モンテネグロ	427	メキシコ	420	ジャマイカ*	410
54					アゼルバイジャン	353	モンテネグロ	408	ウルグアイ	411	コロンビア	425	ブルガリア	420	コロンビア	409
55					カタール	312	ヨルダン	405	ブラジル	410	メキシコ	423	ヨルダン※	419	ペルー	408
56					キルギス	285	チュニジア	404	チュニジア	404	モルドバ※	416	マレーシア	415	モンテネグロ	405
57					アメリカ(注3)	m	インドネシア	402	コロンビア	403	タイ	409	ブラジル	413	ブルガリア	404
58							アルゼンチン	398	ヨルダン	399	ヨルダン※	408	コロンビア	412	アルゼンチン	401
59							カザフスタン	390	マレーシア	398	ブラジル	407	ブルネイ	408	パナマ*	392
60							アルバニア	385	インドネシア	396	アルバニア※	405	カタール	407	マレーシア	388
61							カタール	372	アルゼンチン	396	カタール	402	アルバニア	405	カザフスタン	386
62							パナマ	371	アルバニア	394	ジョージア※	401	ボスニア・ヘルツェゴビナ	403	サウジアラビア	383
63							ペルー	370	カザフスタン	393	ペルー	398	アルゼンチン※	402	キプロス	381
64							アゼルバイジャン	362	カタール	388	インドネシア※	397	ペルー	401	タイ	379
65							キルギス	314	ペルー	384	チュニジア	361	サウジアラビア※	399	モンゴル	378
66											ドミニカ共和国	358	タイ	393	グアテマラ※	374
67											マケドニア※	352	北マケドニア※	393	ジョージア	374
68											アルジェリア※	350	パラグアイ※	389	パラグアイ※	373
69											コソボ※	347	カザフスタン	387	バクー(アゼルバイジャン)	365
70											レバノン※	347	ジョージア	380	エルサルバドル	365
71													パナマ	377	インドネシア	359
72													インドネシア	371	北マケドニア	359
73													モロッコ	359	アルバニア	358
74													レバノン※	353	ドミニカ共和国	351
75													コソボ	353	パレスチナ	349
76													ドミニカ共和国	342	フィリピン	347
77													フィリピン	340	コソボ	342
78															ヨルダン	342
79															モロッコ	339
80															ウズベキスタン	336
81															カンボジア※	329
	OECD平均	500	OECD平均	494	OECD平均	492	OECD平均	493	OECD平均	496	OECD平均	493	OECD平均	487	OECD平均	476

国　名	OECD加盟国
国　名	非OECD加盟国
平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
平均得点	OECD平均と統計的な有意差がない国・地域
平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

(注)1. 2000 年調査において国際的な実施基準を満たさなかったオランダは除く。
2. 2003 年調査において国際的な実施基準を満たさなかったイギリスは除く。
3. 2006 年調査において，アメリカは，調査実施後に，評価問題の冊子の組み方に不備が明らかとなったため，読解力の結果の分析から除かれている。
4. 2015 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，国際基準を満たさなかったアルゼンチン，カザフスタン，マレーシアは除く。
5. 2018 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，国際基準を満たさなかったベトナム，スペインは除く。
6. 2022 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，＊は，PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。

【参考】 PISA調査　科学的リテラシー国際比較

	2006年	平均得点	2009年	平均得点	2012年	平均得点	2015年	平均得点	2018年	平均得点	2022年	平均得点
1	フィンランド	563	上海	575	上海	580	シンガポール	556	北京・上海・江蘇・浙江	590	シンガポール	561
2	香港	542	フィンランド	554	香港	555	日本	538	シンガポール	551	日本	547
3	カナダ	534	香港	549	シンガポール	551	エストニア	534	マカオ	544	マカオ	543
4	台湾	532	シンガポール	542	日本	547	台湾	532	エストニア	530	台湾	537
5	エストニア	531	日本	539	フィンランド	545	フィンランド	531	日本	529	韓国	528
6	日本	531	韓国	538	エストニア	541	マカオ	529	フィンランド	522	エストニア	526
7	ニュージーランド	530	ニュージーランド	532	韓国	538	カナダ	528	韓国	519	香港*	520
8	オーストラリア	527	カナダ	529	ベトナム	528	ベトナム※	525	カナダ	518	カナダ*	515
9	オランダ	525	エストニア	528	ポーランド	526	香港	523	香港	517	フィンランド	511
10	リヒテンシュタイン	522	オーストラリア	527	カナダ	525	北京・上海・江蘇・広東	518	台湾	516	オーストラリア*	507
11	韓国	522	オランダ	522	リヒテンシュタイン	525	韓国	516	ポーランド	511	ニュージーランド*	504
12	スロベニア	519	台湾	520	ドイツ	524	ニュージーランド	513	ニュージーランド	508	アイルランド*	504
13	ドイツ	516	ドイツ	520	台湾	523	スロベニア	513	スロベニア	507	スイス	503
14	イギリス	515	リヒテンシュタイン	520	オランダ	522	オーストラリア	510	イギリス	505	スロベニア	500
15	チェコ	513	スイス	517	アイルランド	522	イギリス	509	オランダ	503	イギリス*	500
16	スイス	512	イギリス	514	オーストラリア	521	ドイツ	509	ドイツ	503	アメリカ*	499
17	マカオ	511	スロベニア	512	マカオ	521	オランダ	509	オーストラリア	503	ポーランド	499
18	オーストリア	511	マカオ	511	ニュージーランド	516	スイス	506	アメリカ	502	チェコ	498
19	ベルギー	510	ポーランド	508	スイス	515	アイルランド	503	スウェーデン	499	ラトビア*	494
20	アイルランド	508	アイルランド	508	スロベニア	514	ベルギー	502	ベルギー	499	デンマーク*	494
21	ハンガリー	504	ベルギー	507	イギリス	514	デンマーク	502	チェコ	497	スウェーデン	494
22	スウェーデン	503	ハンガリー	503	チェコ	508	ポーランド	501	アイルランド	496	ドイツ	492
23	ポーランド	498	アメリカ	502	オーストリア	506	ポルトガル	501	スイス	495	オーストリア	491
24	デンマーク	496	チェコ	500	ベルギー	505	ノルウェー	498	フランス	493	ベルギー	491
25	フランス	495	ノルウェー	500	ラトビア	502	アメリカ	496	デンマーク	493	オランダ*	488
26	クロアチア	493	デンマーク	499	フランス	499	オーストリア	495	ポルトガル	492	フランス	487
27	アイスランド	491	フランス	498	デンマーク	498	フランス	495	ノルウェー	490	ハンガリー	486
28	ラトビア	490	アイスランド	496	アメリカ	497	スウェーデン	493	オーストリア	490	スペイン	485
29	アメリカ	489	スウェーデン	495	スペイン	496	チェコ	493	ラトビア	487	リトアニア	484
30	スロバキア	488	オーストリア	494	リトアニア	496	スペイン	493	スペイン	483	ポルトガル	484
31	スペイン	488	ラトビア	494	ノルウェー	495	ラトビア	490	リトアニア	482	クロアチア	483
32	リトアニア	488	ポルトガル	493	ハンガリー	494	ロシア	487	ハンガリー	481	ノルウェー	478
33	ノルウェー	487	リトアニア	491	イタリア	494	ルクセンブルク	483	ロシア	478	イタリア	477
34	ルクセンブルク	486	スロバキア	490	クロアチア	491	イタリア	481	ルクセンブルク	477	トルコ	476
35	ロシア	479	イタリア	489	ルクセンブルク	491	ハンガリー	477	アイスランド	475	ベトナム※	472
36	イタリア	475	スペイン	488	ポルトガル	489	リトアニア	475	クロアチア	472	マルタ	466
37	ポルトガル	474	クロアチア	486	ロシア	486	クロアチア	475	ベラルーシ	471	イスラエル	465
38	ギリシャ	473	ルクセンブルク	484	スウェーデン	485	ブエノスアイレス※	475	ウクライナ※	469	スロバキア	462
39	イスラエル	454	ロシア	478	アイスランド	478	アイスランド	473	トルコ	468	ウクライナ	450
40	チリ	438	ギリシャ	470	スロバキア	471	イスラエル	467	イタリア	468	セルビア	447
41	セルビア	436	ドバイ	466	イスラエル	470	マルタ※	465	スロバキア	464	アイスランド	447
42	ブルガリア	434	イスラエル	455	ギリシャ	467	スロバキア	461	イスラエル	462	ブルネイ	446
43	ウルグアイ	428	トルコ	454	トルコ	463	ギリシャ	455	マルタ	457	チリ	444
44	トルコ	424	チリ	447	アラブ首長国連邦	448	チリ	447	ギリシャ	452	ギリシャ	441
45	ヨルダン	422	セルビア	443	ブルガリア	446	ブルガリア	446	チリ	444	ウルグアイ	435
46	タイ	421	ブルガリア	439	チリ	445	アラブ首長国連邦	437	セルビア	440	カタール	432
47	ルーマニア	418	ルーマニア	428	セルビア	445	ウルグアイ	435	キプロス	439	アラブ首長国連邦	432
48	モンテネグロ	412	ウルグアイ	427	タイ	444	ルーマニア※	435	マレーシア	438	ルーマニア	428
49	メキシコ	410	タイ	425	ルーマニア	439	キプロス	433	アラブ首長国連邦	434	カザフスタン	423
50	インドネシア	393	メキシコ	416	キプロス	438	モルドバ※	428	ブルネイ	431	ブルガリア	421
51	アルゼンチン	391	ヨルダン	415	コスタリカ	429	アルバニア※	427	ヨルダン※	429	モルドバ	417
52	ブラジル	390	トリニダード・トバゴ	410	カザフスタン	425	トルコ	425	モルドバ※	428	マレーシア	416
53	コロンビア	388	ブラジル	405	マレーシア	420	トリニダード・トバゴ※	425	タイ	426	モンゴル	412
54	チュニジア	386	コロンビア	402	ウルグアイ	416	タイ	421	ウルグアイ	426	コロンビア	411
55	アゼルバイジャン	382	モンテネグロ	401	メキシコ	415	コスタリカ	420	ルーマニア※	426	コスタリカ	411
56	カタール	349	アルゼンチン	401	モンテネグロ	410	カタール	418	ブルガリア	424	キプロス	411
57	キルギス	322	チュニジア	401	ヨルダン	409	コロンビア	416	メキシコ	419	メキシコ	410
58			カザフスタン	400	アルゼンチン	406	メキシコ	416	カタール	419	タイ	409
59			アルバニア	391	ブラジル	405	モンテネグロ	411	アルバニア	417	ペルー	408
60			インドネシア	383	コロンビア	399	ジョージア※	411	コスタリカ	416	アルゼンチン	406
61			カタール	379	チュニジア	398	ヨルダン※	409	モンテネグロ	415	モンテネグロ	403
62			パナマ	376	アルバニア	397	インドネシア※	403	コロンビア	413	ブラジル	403
63			アゼルバイジャン	373	カタール	384	ブラジル	401	北マケドニア※	413	ジャマイカ*	403
64			ペルー	369	インドネシア	382	ペルー	397	ペルー	404	サウジアラビア	390
65			キルギス	330	ペルー	373	レバノン※	386	アルゼンチン※	404	パナマ*	388
66							チュニジア	386	ブラジル	404	ジョージア	384
67							マケドニア※	384	ボスニア・ヘルツェゴビナ	398	インドネシア	383
68							コソボ※	378	バクー(アゼルバイジャン)	398	バクー(アゼルバイジャン)	380
69							アルジェリア※	376	カザフスタン	397	北マケドニア	380
70							ドミニカ共和国	332	インドネシア	396	アルバニア	376
71									サウジアラビア※	386	ヨルダン	375
72									レバノン※	384	エルサルバドル	373
73									ジョージア	383	グアテマラ※	373
74									モロッコ	377	パレスチナ	369
75									コソボ	365	パラグアイ※	368
76									パナマ	365	モロッコ	365
77									フィリピン	357	ドミニカ共和国	360
78									ドミニカ共和国	336	コソボ	357
79											フィリピン	356
80											ウズベキスタン	355
81											カンボジア※	347
	OECD平均	500	OECD平均	501	OECD平均	501	OECD平均	493	OECD平均	489	OECD平均	485

国名　OECD加盟国
国名　非OECD加盟国

平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
平均得点　OECD平均と統計的な有意差がない国・地域
平均得点　OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

(注)1. 2015 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，国際基準を満たさなかったアルゼンチン，カザフスタン，マレーシアは除く。
2. 2018 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，国際基準を満たさなかったベトナムは除く。
3. 2022 年調査において，※は，コンピュータ使用型調査の実施ではなく，筆記型調査で実施した国を示す。また，＊は，PISAサンプリング基準を一つ以上満たしていないことを示す。